

## SIMATIC HMI

### WinCC V7.2

### WinCC:インストール/リリースノ ト




システムマニュアル

オンラインヘルプの印刷

## 法律上の注意

### 警告事項

本書には、ユーザーの安全性を確保し製品の損傷を防止するうえ守るべき注意事項が記載されています。ユーザーの安全性に関する注意事項は、安全警告サインで強調表示されています。このサインは、物的損傷に関する注意事項には表示されません。以下に表示された注意事項は、危険度によって等級分けされています。

 <b>危険</b>
回避しなければ、直接的な死または重傷に至る危険状態を示します。
 <b>警告</b>
回避しなければ、死または重傷に至るおそれのある危険な状況を示します。
 <b>注意</b>
回避しなければ、軽度または中度の人身傷害を引き起こすおそれのある危険な状況を示します。
<b>通知</b>
回避しなければ、物的損傷を引き起こすおそれのある危険な状況を示します。


複数の危険レベルに相当する場合は、通常、最も危険度の高い事項が表示されることになっています。安全警告サイン付きの人身傷害に関する注意事項があれば、物的損傷に関する警告が付加されます。

### 有資格者

本書が対象とする製品/システムは必ず有資格者が取り扱うものとし、各操作内容に関連するドキュメント、特に安全上の注意及び警告が遵守されなければなりません。有資格者とは、訓練内容及び経験に基づきながら当該製品/システムの取り扱いに伴う危険性を認識し、発生し得る危害を事前に回避できる者をいいます。

### シーメンス製品を正しくお使いいただくために

以下の事項に注意してください。

 <b>警告</b>
シーメンス製品は、カタログおよび付属の技術説明書の指示に従ってお使いください。他社の製品または部品との併用は、弊社の推奨もしくは許可がある場合に限りです。製品を正しく安全にご使用いただくには、適切な運搬、保管、組み立て、据え付け、配線、始動、操作、保守を行ってください。ご使用になる場所は、許容された範囲を必ず守ってください。付属の技術説明書に記述されている指示を遵守してください。

### 商標

®マークのついた称号はすべて **Siemens AG** の商標です。本書に記載するその他の称号は商標であり、第三者が自己の目的において使用した場合、所有者の権利を侵害することになります。

### 免責事項

本書のハードウェアおよびソフトウェアに関する記述と、実際の製品内容との一致については検証済みです。しかしなお、本書の記述が実際の製品内容と異なる可能性もあり、完全な一致が保証されているわけではありません。記載内容については定期的に検証し、訂正が必要な場合は次の版で更新いたします。

# 目次

<b>1</b>	<b>WinCC リリースノート</b> .....	<b>5</b>
1.1	リリースノート.....	5
1.2	操作上の注記.....	6
1.2.1	操作上の注記.....	6
1.2.2	オペレーティングシステムでアクセス許可を定義.....	8
1.2.3	Windows オペレーティングシステム.....	12
1.2.4	データベースシステム.....	18
1.2.5	ネットワークテクノロジーと USP.....	19
1.3	WinCC に関する注意点.....	26
1.3.1	WinCC および設定に関する一般情報.....	26
1.3.2	WinCC CS.....	31
1.3.3	WinCC ランタイム.....	35
1.3.4	スマートツール.....	38
1.3.5	プロセス通信.....	41
1.4	WinCC 冗長性に関する注記.....	44
1.5	プロセスコントロールオプションに関する注記.....	46
<b>2</b>	<b>WinCC の最新情報</b> .....	<b>51</b>
2.1	WinCC V7 の最新情報.....	51
2.2	サポートされているオペレーティングシステム.....	52
2.3	拡張された数量フレームワーク: 18 台の冗長サーバー.....	53
2.4	新しいチャンネル DLL: 「SIMATIC S7-1200, S7-1500 Channel」.....	54
2.5	コンフィグレーションスタジオ: タグ管理の簡易コンフィグレーション.....	55
2.6	グラフィックデザイナーおよびグローバルスクリプトエディタの革新性.....	57
2.7	簡易ランタイム操作: WinCC システムダイアログ、お気に入り、マルチタッチ.....	58
2.8	簡素化された多言語での作業.....	60
2.9	プロセス値アーカイブ用の詳細設定機能.....	61
2.10	WinCC OnlineTableControl の拡張機能.....	62
2.11	WinCC/WebNavigator の拡張機能.....	63
2.12	WinCC/DataMonitor の拡張機能.....	65
2.13	SIMATIC Process Historian: 新しいアーカイブサーバー.....	66

2.14	SIMATIC Information Server: 新しいレポートシステム.....	67
2.15	WinCC プロジェクトの容易な移行.....	68
2.16	その他のイノベーション.....	69
<b>3</b>	<b>WinCC インストールに関する注意点.....</b>	<b>71</b>
3.1	インストールガイド.....	71
3.2	納入範囲.....	72
3.3	ライセンスとライセンス供与.....	75
3.4	ASIA ライセンスの有効化とテスト.....	78
3.5	インストールの必要条件.....	81
3.5.1	WinCC インストールの前提条件.....	81
3.5.2	インストールのハードウェア前提条件.....	83
3.5.3	インストールのソフトウェア前提条件.....	87
3.5.4	データとシステムのセキュリティに関する注.....	93
3.5.5	オペレーティングシステムのアクセス権.....	95
3.5.5.1	オペレーティングシステムでアクセス許可を定義.....	95
3.5.5.2	"SIMATIC HMI"ユーザーグループにユーザーを含める.....	99
3.5.5.3	"SIMATIC HMI"ユーザーグループに、ドメインのグローバルユーザーグループを含める.....	100
3.5.5.4	"SIMATIC HMI"ユーザーグループの既存のプロジェクトをリリースします。.....	100
3.5.6	Windows セキュリティポリシーの適合方法.....	101
3.6	WinCC のインストール.....	103
3.6.1	WinCC のインストール.....	103
3.6.2	Microsoft メッセージキューのインストール方法.....	104
3.6.3	WinCC のインストール方法.....	106
3.6.4	追加コンポーネントを後でインストールする方法.....	110
3.6.5	追加言語をインストールするには.....	112
3.6.6	標準クライアントのアップグレード方法.....	112
3.7	アンインストールの方法.....	114
3.8	WinCC のアップグレード.....	116
3.8.1	WinCC のアップグレード.....	116
3.8.2	アップグレードインストールの実行方法.....	117
3.9	ソフトウェアの実行に関する注意.....	119
	索引.....	121

# WinCC リリースノート

## 1.1 リリースノート

### 内容

このリリースノートには重要な情報が記載されています。

このリリースノートの情報は、法的な有効性においてマニュアルおよびオンラインヘルプの情報より優先度が高くなっています。

有意義な情報が含まれていますので、リリースノートはよく読んでください。

## 1.2 操作上の注記

### 1.2.1 操作上の注記

#### 一般情報

##### 外部アプリケーションからの負荷を避ける

同じコンピュータ上で複数のプログラムを同時に実行すると、コンピュータが高い負荷レベルの条件にさらされる可能性があります。確実に問題なく WinCC を操作するため、PC 上のリソースクランチを引き起こす可能性のあるアプリケーションを実行しないでください。したがって、WinCC を起動する前に不要なプログラムを閉じておく必要があります。追加情報については、「プロジェクトでの作業 > ランタイムの設定 > 外部アプリケーションのランタイムに対する影響」のセクションを参照してください。

#### ウイルススキャナの使用

以下のウイルススキャナが、WinCC V7.2 で使用するためにリリースされています。

- Trend Micro "Office Scan" Client-Server Suite V10.6
- Symantec Endpoint Protection V12.1 (Norton Antivirus)
- McAfee VirusScan Enterprise V8.8

##### 基本原則

ウイルススキャナの使用によって、設備の運転や工程が妨げられないように、十分な注意を払うこと。

##### ローカルウイルススキャナのルール(ウイルススキャンクライアント)

- ウィルススキャナの統合されたファイアウォール  
WinCC V7.2 は、ローカル Windows ファイアウォールが SIMATIC セキュリティコントロールを介してプログラムできます。ウイルススキャナが統合されたファイアウォールをインストールまたは有効化することはできません。
- 手動スキャン  
ランタイムで手動スキャンを実行できません。定期保守時などにすべてのシステム PC で定期的にこのスキャンを実行します。
- 自動スキャン  
自動スキャンは、受信データトラフィックのスキャンのみで十分です。

- スケジュール済みスキャン  
ランタイムでスケジュール済みスキャンを実行できません。
- パターンアップデート  
ウィルススキャンクライアント(ウィルスチェックの行われるシステム PC)のパターンアップデートは、高レベルのウィルススキャンサーバー(ウィルススキャンクライアントを一元管理しているシステム PC)によって行われます。
- ダイアログ  
プロセスモードへの干渉を回避するために、ダイアログメッセージはウィルススキャンクライアントに表示されてはなりません。
- ドライブ  
ネットワークドライブの重複スキャンを避けるため、ローカルドライブのみがスキャンされます。
- Eメールを受信する WinCC Engineering Station 以外の電子メールスキャンを無効にすることができます。

それ以外はデフォルト設定に従ってください。

それによって以下のような安全が守られます

受信データのウィルスチェックが行われます。このプロセスモードへの影響は最小限に抑えられます。

---

#### 注記

ウィルススキャナを使用する場合、コンピュータに十分なシステムリソースがあるか確認してください。

---

#### スクリーンセーバー

スクリーンセーバーを実行すると、プロセッサ処理に時間がかかり、システムに過度の負荷をかけることがあります。スクリーンセーバーはワークメモリの部分を解放しないため、使用可能なワークメモリは徐々に減少します。Windows の「ログオンスクリーンセーバー」は使用できます。

## 1.2 操作上の注記

### 互換性

互換性に関する情報は、下記インターネットの FAQ-No. 21927773 を参照してください。

- <http://www.siemens.de/automation/csi/faq> (<http://www.siemens.de/automation/csi/faq>)

### 下記も参照

<http://www.siemens.de/automation/csi/faq> (<http://www.siemens.de/automation/csi/faq>)

## 1.2.2 オペレーティングシステムでアクセス許可を定義

### はじめに

システム保護をサポートするため、WinCC は構造化されたユーザー管理を提供します。

- システムを未許可のアクセスから保護します。
- 必要な権限を各ユーザーに割り付けます。

WinCC で作業するために、特定のフォルダにネットワーク経由でのアクセスを有効にできます。セキュリティ上の理由から、認証されたユーザーだけにこれらのフォルダに対するアクセス権を割り付ける必要があります。Windows 標準ユーザーグループや、WinCC で作成したユーザーグループ経由でアクセス権を管理します。



## WinCC で指定されるアクセス権

WinCC インストール後、WinCC は、Windows ユーザーとグループの管理に、以下のローカルグループを自動的に確立します。

- "SIMATIC HMI"  
すべてのユーザーは"SIMATIC HMI"ユーザーグループのメンバである必要があります。このメンバは、ローカルプロジェクトを作成し、このローカルプロジェクトをリモートで処理、開始、アクセスすることができます。WinCC データベースへのアクセスは、必要な最小権限(読み取り/書き込み)に限定されます。デフォルトでは、WinCC のインストールを実行するユーザー、およびローカル管理者は、このグループのメンバです。追加のメンバは、管理者が手動で追加する必要があります。
- "SIMATIC HMI Viewer"  
このメンバには、WinCC データベースの コンフィグレーションデータおよびランタイムデータへの読み取りアクセス権のみがあります。このグループは主に、WinCC WebNavigator を操作するための Web 公開サービス、たとえば IIS (インターネットインフォメーションサービス)アカウント用のアカウントに使用します。
- "<インストールディレクトリ>/WinCC/aplib"フォルダにアクセスします  
インストール後、"SCRIPTFACT"という名前の"インストレーションディレクトリ/WinCC/aplib"ディレクトリで"SIMATIC HMI"ユーザーグループに対するロックが解除されます。このディレクトリには、プロジェクトスクリプト機能用の中央ライブラリが含まれます。

## ユーザーグループとユーザー権限

以下の概要で、アクセス権のある異なるユーザーグループのタスクと、これらのアクセス権を割り付けるために必要な指示が示されます。

## WinCC インストール

- タスク: WinCC インストール
- 役割: コンフィグレーションエンジニア、管理者
- オーソリゼーション: Windows 管理者権限
- 手順:  
インストール前に、コンピュータに対するローカル管理者権限があることを確認します。
- 説明:  
WinCC のインストールにはローカル管理者権限が必要です。

## 1.2 操作上の注記

### 操作準備

- タスク: WinCC へのアクセス
- 役割: コンフィグレーションエンジニア、管理者
- オーソリゼーション: パワーユーザー権限、管理者権限
- 手順:  
インストール後、管理者またはパワーユーザーとして管理設定を行います。
- 説明:  
パワーユーザー権限は、ファイル権限のオーソリゼーションやプリンタドライバ設定といった管理設定に対する最低要件になります。  
WinCC プロジェクトを完全に削除するには、少なくともパワーユーザー権限が必要です。

### WinCC 操作時のローカルユーザー権限

- タスク: ランタイムのオペレータ入力、コンフィグレーション
- 役割: WinCC ユーザー(オペレータ、コンフィグレーションエンジニア)
- オーソリゼーション:
  - Windows グループ"ユーザー"
  - ユーザーグループ"SIMATIC HMI"
- 手順:  
"SIMATIC HMI"ユーザーグループにユーザーを追加します。少なくとも Windows"ユーザー"ユーザーグループにユーザーを追加します。
- 説明:  
WinCC を操作するため、あるいはクライアントおよびサーバーで WinCC プロジェクトにリモートアクセスするためには、ユーザーは"SIMATIC HMI"ユーザーグループのメンバである必要があります。

### 分散システムに対するアクセス

- タスク: 分散システムに対するアクセス
- 役割: WinCC ユーザー(オペレータ、コンフィグレーションエンジニア)
- オーソリゼーション: すべてのコンピュータに対するユーザーグループを均一化します。

- 手順:  
同一グループ内のすべてのコンピュータに WinCC ユーザーを入力します。  
すべてのユーザーに同一パスワードを割り付けます。
- 説明:  
分散システムへのアクセスでは、クライアントサーバーに同一ユーザーグループを作成する必要があります。

### ローカルプロジェクトに対するアクセス権

- タスク: 以下のように作成したプロジェクトに対するアクセス:
  - 手動コピー
  - 複製
  - 検索
  - 移行
- 役割: WinCC ユーザー(オペレータ、 コンフィグレーションエンジニア)
- オーソリゼーション: SIMATIC HMI, SIMATIC HMI Viewer
- 手順:  
"SIMATIC HMI"グループのプロジェクトフォルダにフルアクセス権を割り付けます。  
そのためには、管理者またはパワーユーザーとして作成後にプロジェクトを 1 度開きます。 または、Windows Computer Management でアクセス権を指定できます。  
Project Duplicator を使ってプロジェクトをコピーするする場合も、適切な権限が必要になります。 使用されたフォルダに対するアクセスを認めるか、メインユーザーとしてフォルダを複製する必要があります。
- 説明:  
ローカルプロジェクトが新たに作成されると、ユーザーグループ"SIMATIC HMI"および"SIMATIC HMI Viewer"のメンバはプロジェクトディレクトリに対する必要なアクセス権を自動的に受け取ります。  
ただし、プロジェクトがコピー、ログイン、あるいは移行される場合、ローカルオーソリゼーションは転送されないため、再度割り付ける必要があります。

### システム情報へのアクセス権

- タスク: WinCC チャンネル"システム情報"を使用したシステム情報へのアクセス
- 役割: オペレータ
- オーソリゼーション: システムモニタユーザー

## 1.2 操作上の注記

- 手順:  
Windows グループ"システムモニタユーザー"に、WinCC チャンネル"システム情報"の以下のシステム情報を必要とするすべてのユーザーを受け入れます。
  - CPU 負荷
  - エクスポートファイルのステータス
- 説明:  
Windows の標準的なユーザー権限を有するユーザーには、特定のシステム情報へのアクセス権限はありません。

### 1.2.3 Windows オペレーティングシステム

#### 一般情報

#### WinCC インターフェースおよび 64 ビットのオペレーティングシステム

WinCC のパブリックインターフェースは、ネイティブの 64 ビットをサポートしていません。これは主に、ODK、VBS、および WinCC OLEDB プロバイダに影響します。64 ビットのオペレーティングシステムで WinCC のインターフェースを使用するには、以下の規則に従う必要があります。

- ダブルクリックだけで VB スクリプトを起動することはできません。  
"syswow64\wscript.exe"の下で 32 ビットバージョンを明示的に使用する必要があります。
- WinCC API を使用する .NET アプリケーションは、32 ビットアプリケーションとして明示的にコンパイルしなければなりません。"AnyCPU"ではなく、"x86"で使用。
- C++アプリケーションは、64 ビットアプリケーションとしてコンパイルすることができません。

#### Microsoft のセキュリティ更新およびパッチ

Microsoft の最新のパッチとセキュリティ更新がすべて、お使いのコンピュータにインストールされていることを確認してください。

詳細情報については、SIMATIC カスタマーオンラインサポートの FAQ を参照してください。

- SIMATIC カスタマーオンラインサポート: FAQ 検索 (<http://support.automation.siemens.com/WW/llisapi.dll?query=WinCC+Microsoft&func=cslib.cssearch&content=adsearch%2Fadsearch.aspx&lang=en&siteid=csius&objaction=cssearch&searchinprim=&nodeid99=>)

## ランタイム時の Windows へのアクセスを禁止

### ランタイム中のオンラインヘルプの表示

システム上で、ユーザーが工場でオペレーティングシステムレベルにアクセスできないようにするには、すべてのコントロールでオンラインヘルプを無効にします。これにより、Windows 選択ダイアログが開けなくなります。[プロジェクトプロパティ]ダイアログの[オプション]タブの[ランタイム時にヘルプを表示]を無効にします。

### ランタイム中の Windows タスクバーの表示

コンピュータのプロパティを使用して、ランタイム中に Windows タスクバーが表示されないようにすることができます。[コンピュータのプロパティ]ダイアログの[パラメータ]タブを開き、[キーの無効化]領域のショートカットキーをすべて無効にします。

また、Windows の[タスクバーをほかのウィンドウの手前に表示する]設定を必ず無効にしてください。

<CTRL+ESC>ショートカットキーを無効にする場合は、ランタイム時に以下のショートカットキーも無効になります。

ショートカットキー	ファンクション
<Windows キー+U>	システムユーティリティプログラムマネージャ
<SHIFT>キーを 5 回押す	機能のロック
<SHIFT 右>キーを 8 秒間押す	打鍵の遅延
<ALT left+SHIFT left+NUM>	キーボードマウス
<ALT left+SHIFT left+PRINT>	ハイコントラスト

上記の機能は[Windows コントロールパネル]を使用して構成することができます。この機能を WinCC Runtime を有効にする前に[Windows コントロールパネル]で有効にすると、ランタイム中ロックされません。

#### Windows で有効になっている[画面キーボード]を使用しないでください

ランタイム時に Windows タスクバーが表示されないようにするには、Windows で有効になっている[画面キーボード]の代わりに、WinCC で提供される画面キーボードを使用してください。

#### 標準の印刷としてファイルへの印刷を指定しないでください

Windows オペレーティングシステムの標準的な印刷手順としてファイルへの印刷を設定しないでください。これにより、WinCC から印刷する際に、ファイルを保存するための Windows ダイアログが開かないようにできます。

### ランタイム時の Windows 7/Windows Server 2008 へのアクセスの禁止

#### ショートカットキーの無効化

Windows 7 または Windows Server 2008 でショートカットキーを無効にする場合、オペレーティングシステム管理でグループポリシーを調整する必要があります。

この詳細な説明については、下記の SIMATIC カスタマーオンラインサポートのエントリ ID 「44027453」の FAQ を参照してください。

- インターネット: WinCC FAQ 44027453 (<http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/44027453>)

この調整を行わない場合、一般的に Windows 7 および Windows Server 2008 でキーを無効にすることはできません。その場合ユーザーは WinCC Runtime にショートカットキー<Ctrl+Alt+Del>を使用して、コンピュータのロック、ユーザーの変更、ログオフ、パスワードの変更、タスクマネージャの起動など、関連する操作をすべて実行できます。

### Web クライアント： Internet Explorer での ActiveX コントロールの表示

デフォルトでは、Internet Explorer で ActiveX コントロールは無効です。この理由により、現在 WinCC コントロールは Web クライアントの Internet Explorer に正しく表示されません。

WinCC コントロールを正しく表示するには、Web サーバーを信頼済み Web サイトとして追加し、[信頼済みサイト]のゾーンに対してのみ ActiveX コントロールを有効にします。

異質な ActiveX コントロールから引き続き Internet Explorer を保護するには、変更した後、制限されたセキュリティの設定が他のゾーンに引き続き適用されていることを確認します。

詳細情報については、以下のドキュメントを参照してください：

- WinCC/WebNavigator: [WinCC/WebNavigator インストールに関する注意事項] > [WebNavigator クライアントのインストール] > [Internet Explorer での設定]
- WinCC/DataMonitor: [WinCC/DataMonitor ドキュメント] > [DataMonitor システムの構成] > [DataMonitor クライアントの操作] > [Internet Explorer のセキュリティ設定の構成]

### Internet Explorer: インターネット接続せずに WinCC の設定

インターネット接続のないコンピュータ上で WinCC を操作する場合、インターネットオプションの[詳細設定]タブの[発行元証明書の取り消しを確認する]オプションを無効にします。

### Internet Explorer V7.0 以降：オンラインヘルプの表示

Internet Explorer V7.0 を使用する場合、最新の Microsoft Update がすべてインストールされていることを確認してください。

最新の Microsoft Update がインストールされていないと、オンラインヘルプの表示が遅れることがあります。

### DCOM コンフィグレーションの警告

"Dcomcnfg.exe"プログラムの起動中に、WinCC コンポーネントの AppID が登録されていないことについて警告が表示される場合があります。この動作は、ソフトウェアの機能には影響ありません。警告は無視することができます。

### 画面設定の変更

#### 色のパレットの変更

Windows のコントロールパネルで色パレットを変更すると、色が変更され、テキストが読みにくくなります。したがって、プロジェクトの作成時に、ランタイムで使用される色パレットと同じものを必ず使用してください。

#### 解像度の変更

目的のシステムで異なる解像度を使用するには、画像およびウィンドウに対して[画像の調整]または[サイズの調整]ファンクションを使用します。これらの設定を使用すると、ランタイム中に表示がぼやけ、システムの負荷が増加する可能性があります。

### 多言語がインストールされたオペレーティングシステム メッセージボックスの言語が正しくない

ユーザーに「はいいいえ」、「OK/キャンセル」などで返答を要求するメッセージボックスの場合、CS と RT の両ボタンに常に英語のラベルが付けられます。この特性は、オペレーティングシステムの言語設定と WinCC の言語とは関係ありません。

### Novell Netware クライアント

WinCC は、Novell クライアントソフトウェアと同じシステムにインストールしないでください。

WinCC をインストールすると、Novell システムにログオンできなくなったり、ランタイム中にキーボードがロックされるなどの影響が出る場合があります。

Netware クライアントソフトウェアを使用しないか、Microsoft client for Netware を使用することをお勧めします。

### Windows 7 および Windows Server 2008 に関する注記

#### 仮想キーボードの遅い応答

Windows 7 および Windows Server 2008 では、「Microsoft OSK」および「HMI TouchInputPC」の仮想キーボードの起動がきわめて遅くなります。この遅れはインターネット証明書をコールバックで確認するためです。

#### 対策

コールバックによるインターネット証明書の確認を、無効にします。

以下のファイルは、製品 DVD の<Tools\TouchInputPC>にあります。

- DisableCRLCheck\_LocalSystem.cmd
- DisableCRLCheck\_CurrentUser.cmd

以下のように実行します。

1. 管理者権限で「DisableCRLCheck\_LocalSystem.cmd」ファイルを実行します。  
これを実行するには、ファイルのショートカットメニューでコマンド[管理者として実行]を入力します。
2. コンピュータを再起動します。

問題が解決されない場合は、以下の手順に従います。

1. ユーザー権限で「DisableCRLCheck\_CurrentUser.cmd」ファイルを実行します。  
これを実行するには、ファイルをダブルクリックします。
2. コンピュータを再起動します。



---

**注記****「コールバックによるインターネット証明書の確認」の再アクティブ化**

すべてのユーザーやコンピュータ全体に対して、コールバックによるインターネット証明書の確認を無効にします。

初期設定を復元するには、製品 DVD から<Tools\TouchInputPC>パスで以下のファイルを実行します。

- RestoreDefaults\_LocalSystem.cmd
  - RestoreDefaults\_CurrentUser.cmd
- 

**Windows Server 2003 に関する情報****Windows Server 2003 R2 を使用したときの管理コンソールのエラーメッセージ**

Windows Server 2003 R2(標準エディション)をインストールし、[サービスとアプリケーション]を選択すると、オペレーションシステムの管理コンソール(MMC)に次のエラーメッセージが表示されることがあります。

- SQL Server Configuration Manager  
「A fault was found in a snap-in. We recommend that you shut the MMC down and restart(障害がスナップインで見つかりました。MMC をシャットダウンして、再起動することをお勧めします。)」
  - このエラーを Microsoft に報告し、MMC をシャットダウンします。
  - 続行してその後のスナップインエラーを無視します。
  - ユーザー、セッションに関わらず続行してその後のスナップインエラーを無視します。

この警告は無視できます。[スナップインエラーを無視して続行する]オプションを選択して、[OK]をクリックしてダイアログを閉じます。

**Windows Server 2003 R2 上への S7-DOS のインストール時のエラーメッセージ**

S7-DOS のインストール時にはエラーメッセージを無視できます。メッセージをクリアするには、存在する場合に次のレジストリキーを削除します。

- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\SNTIE
- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\ls7snrxtx

## 1.2 操作上の注記

- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\vsnl2ada
- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\dpmconv

### 下記も参照

SIMATIC カスタマーオンラインサポート: FAQ 検索 (<http://support.automation.siemens.com/WW/llisapi.dll?query=WinCC+Microsoft&func=cslib.cssearch&content=adsearch+%2Fadsearch.aspx&lang=en&siteid=csius&objaction=cssearch&searchinprim=&nodeid99=>)

インターネット: WinCC FAQ (<http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/10805583/133000>)

インターネット: WinCC FAQ 44027453 (<http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/44027453>)

## 1.2.4 データベースシステム

### DB.dll に関する情報

DB.dll は、C API ファンクションによりデータベースにアクセスするための ODK コンポーネントです。このファンクションは WinCC での使用がサポートされなくなりました。WinCC のデータベースアクセスレイヤ DB.dll を使って新しいアプリケーションを作成しないでください。

代わりに、Microsoft が提供する以下のファンクションを使用します。

- .NET ベースのアプリケーションでは ADO.NET を使用します。 .NET Framework のデータベースインターフェースは、オブジェクト指向であり、拡張可能なアプリケーション用に設計されています。このインターフェースもファイアウォールを通したデータ通信に適しています。
- C++ベースのアプリケーションで OLE DB を使用することができます。Microsoft は、このために Visual Studio でテンプレートを提供しています。これにより、一般的に使用される多くの OLE DB インターフェースを実装するクラスを持つ OLE DB データベース技術の利用が容易になります。
- また、ODBC C++ベースのアプリケーションを使用することもできます。Microsoft はこのためにクラスを提供しており、プログラミングが容易になっています。

これに関する詳細情報および例は、Microsoft の Web サイトにあります。

## Microsoft SQL Server についての注意

### システム実行中にサーバーの電源が切れた場合の SQL マスタデータベースへのアクセスのエラー

ランタイム中にサーバーに不測の障害が発生(電源異常や電源プラグの切断)した場合、WinCC インストールが壊れ、再起動後に SQL Server が SQL マスタデータベースにアクセスできなくなることがあります。アクセスするには WinCC インスタンスを再インストールする必要があります。

WinCC インスタンスを再インストールするには、WinCC と SQL Server の両方をアンインストールし、再インストールする必要があります。

### WinCC データベースに対する強化されたアクセス保護

アクセス保護を強化する目的のため、ユーザー名 "WinCCAdmin" および "WinCCConnect" が WinCC データベースから削除されています。これらのユーザー名を使用して WinCC データベースにアクセスすることは、できなくなりました。パスワードを設定した独自の SQL ユーザー名を使用するアプリケーションには、影響しません。

SQL Server のユーザー "SA" (system administrator: システム管理者) は、インストールの間、無効になります。

### WinCC プロジェクトデータベースの手動での切り離し

Microsoft SQL Server のシステムプロパティが原因で、WinCC プロジェクトデータベースを切り離す際に、NTFS オーソリゼーションが変更されることがあります。

WinCC プロジェクトを閉じた後に WinCC データベースが接続され続けているか、WinCC データベースを手動で接続した場合、CCCleaner を使用して常にデータベースを切り離す必要があります。「CCCleaner」プログラムは、WinCC インストールディレクトリの「bin」フォルダーにあり、管理者として起動する必要があります。

## 1.2.5 ネットワークテクノロジーと USP

### ネットワーク情報

WinCC は、端末バスに関して TCP/IP ネットワークプロトコルのみをサポートしています。

## 1.2 操作上の注記

### ネットワークサーバーの操作

ネットワークサーバー上で WinCC を操作することは許可されていません(例：ドメインコントローラ、ファイルおよび名前のユーティリティサーバー、ルーター、ソフトウェアファイアウォール、メディアサーバー、Exchange サーバーなど)。

### Windows クラスタ技術によるシステムでの操作

Windows クラスタ技術を実装しているシステム上では、WinCC を使用することはできません。

### 冗長サーバーの使用

冗長サーバーペアを実装しているときは、マスタサーバーとスタンバイサーバーを同じ IP/サブネット帯域で操作する必要があります。

### 省電力モードのあるネットワークアダプタ

省電力モードがあるネットワークアダプタを使用する場合は、この省電力モードを有効にしないでください。

### 複数のネットワークアダプタを使った操作

複数のネットワークアダプタのある PC 上で WinCC を使用する場合は、以下の事項に従ってください。

他の WinCC ステーションとの通信に、WinCC で使用する IP アドレスを選択します。Windows Explorer で、"Simatic Shell"ディレクトリを選択します。[SIMATIC Shell]ダイアログのナビゲーションウィンドウをクリックし、ショートカットメニューから[設定...]を選択します。次に表示される[設定]ダイアログで、使用する IP アドレスを選択します。

このようなコンフィグレーションにもかかわらず、設定およびプロジェクト管理に問題が生じる場合、DHCP サーバーによる WinCC ステーションへの IP アドレスの割り付けが遅すぎるのが原因の可能性がります。この場合、ネットワーク管理者が、問題の WinCC ステーションのネットワークアダプタごとに、IP アドレスを定義する必要があります。

これには、Windows の[スタート]ボタンを押し、[設定|コントロールパネル]を選択します。[ネットワーク接続]フォルダを開き、次いで[LAN 接続]ダイアログを開きます。[プロパティ]ダイアログボックスの[全般]タブをクリックします。[LAN 接続のプロパティ]ダイアログを開き、[全般]タブのリストから、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]エレ

メントをダブルクリックして選択します。インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティにある[次の IP アドレスを使う]オプションボタンを使用して、IP アドレスを定義します。

以下の章の情報に従ってください。「複数のネットワークアダプタのあるサーバーとの通信のための特殊機能」

## ネットワーク環境とネットワークドライブ

不要なネットワークドライブ接続がないことを確かめます。

分散したシステムを再起動した後に遅延が起こることのないように、マルチユーザープロジェクトを最初に開始します。これは、マスタブラウザサービス(オペレーティングシステムにおけるネットワーク環境を表示する機能)の動作と、ドメインおよびワークグループの管理によるものです。

## TCP/IP プロトコルでの操作

TCP/IP プロトコルがインストールされている場合、IP アドレスを有効にして、ランタイム操作中には変更しないようにします。

以下のことに注意する必要があります。

1. TCP/IP プロトコルをインストールした後にネットワークアダプタを取り外したり無効にしたりすると、IP アドレスは無効になります。
2. IP アドレスが初期化されていない可能性があります。これは、たとえば、DHCP サーバーから提供された IP アドレスで TCP/IP プロトコルがインストールされている場合に起こります。コンピュータがネットワークに接続されると、コンピュータが基本初期化を行い、その間に IP アドレスが転送されます。この IP アドレスは、コンピュータの接続をネットワークから外した後も有効なままです。ただし、リース期間が終了した後、別の理由で無効になったり変更されることがあります。

コンピュータがネットワークに接続されていない場合、ユーザーはこのコンピュータにローカルに設定されているユーザーを経由してログオンする必要があります。このユーザーは、ランタイム操作およびコンフィグレーションを行うローカルパワーユーザー権限を保持している必要があります。

## IP アドレスにある先行ゼロ

マルチユーザーモードを使用していて、"hosts"および"lmhosts"を経由して名前を付ける場合、"hosts"ファイルに先行のゼロを入力しないでください。先行ゼロのある IP アドレスは、10 進数の代わりに 8 進数で解釈されます。

## 1.2 操作上の注記

例：

- Computer\_1 199.99.99.020 は、199.99.99.16 として解釈されます(10 進数)。
- Computer\_2 199.99.99.026 は、199.99.99.22 として解釈されます(10 進数)。

また、仕様は 16 進数の形式で作成することも可能です。

- Computer\_1 の 199.99.99.0x10

### 複数のドメインでの WinCC の使用

WinCC の正しい操作が保証されるのは、マルチユーザーシステムのすべてのコンピュータが 1 つの共有ドメインまたはワークグループに置かれている場合のみです。WinCC が異なるドメインまたはワークグループで使用されている場合、アクセス権および/または名前サービスの設定が正しくないと問題が生じることがあります。

1 つのワークグループでユーザ管理を実現する場合、WinCC のすべてのユーザーがマルチユーザーシステムのすべてのコンピュータに設定されていて、必要なアクセス権を保持している必要があります。

### ドメイン内での WinCC の使用

Windows ドメインにアクセスして問題が発生した場合、WinCC の正しい機能は保証されません。したがって、"サーバーに保存されたユーザプロファイル"に加えて、ローカルユーザプロファイルおよび WinCC に必要な権限のあるローカルユーザーを設定する必要があります。ドメインログオンでのアクセス問題がある場合は、WinCC を終了し、ローカルユーザプロファイルを使って再度ログオンしてください。

### ルーターおよびファイアウォールの使用に関する情報

#### ルーターの使用

WinCC V7 を使用すると、ルーター経由で WinCC クライアントを WinCC サーバーに接続することもできます。

独自のプロジェクトのない WinCC クライアントは、ルーターを使用するコンフィグレーションに使用することはできません。WinCC Runtime にのみ使用できます。独自のプロジェクトを持つ WinCC クライアントには、制限はありません。

ルーターを使用するには以下の必要条件があります。

- WinCC で WinCC ステーションの正しい IP アドレスを使用していること。
- 各 WinCC ステーションが WinCC プロジェクトの他のコンピュータの物理コンピュータ名(NETBIOS 名)を解決できること。
- 各 WinCC ステーションが TCP/IP および ICMP 経由で問題なく相互に接続できること。Ping を使用して接続をテストする際、コンピュータに即座にアクセスできる必要があります。

## ネットワーク接続の速度

WinCC をネットワーク速度に適応させるには、WinCC 通信コンフィグレータを使用します。スマートツールは、Windows の[スタート]メニューにある[SIMATIC]プログラムグループの[WinCC] > [ツール]から、アクセスします。詳細については、リリースノートの「WinCC に関する注記」の「スマートツール」の章を参照してください。

低速のネットワーク接続の場合は、以下のことを推奨します。

- 複雑な画像を転送しないなどして、転送するデータ量を制限します。
- WinCC クライアントのローカルページ記述言語のキャッシュを使用します。
- WinCC クライアントの ISDN ルーターをマルチリンクモード(チャンネルバンドリング)で使用します。128 Kbps よりも狭い帯域幅では、不十分なことが実証されています。
- それぞれ追加の ISDN チャンネルには 1 つの WinCC クライアントのみ統合します。
- ISDN ルーター経由の WinCC の操作は、ISDN ネットワークの安定性と可用性に左右されます。
- WinCC 用に最大の接続帯域幅を用意します。

---

### 注記

ISDN 経由の接続および低速接続を使用した操作は、ローカルプロジェクトを持たないクライアントでは許可されていません。

---

## 中央のファイアウォールを使用したオフィスネットワークへの接続

ネットワークの設定によっては、ファイアウォールの負荷が増加することがあります。

このような不具合は、すべての WinCC ステーションに独自の IP アドレスを割り当てることで避けることができます。

1.2 操作上の注記

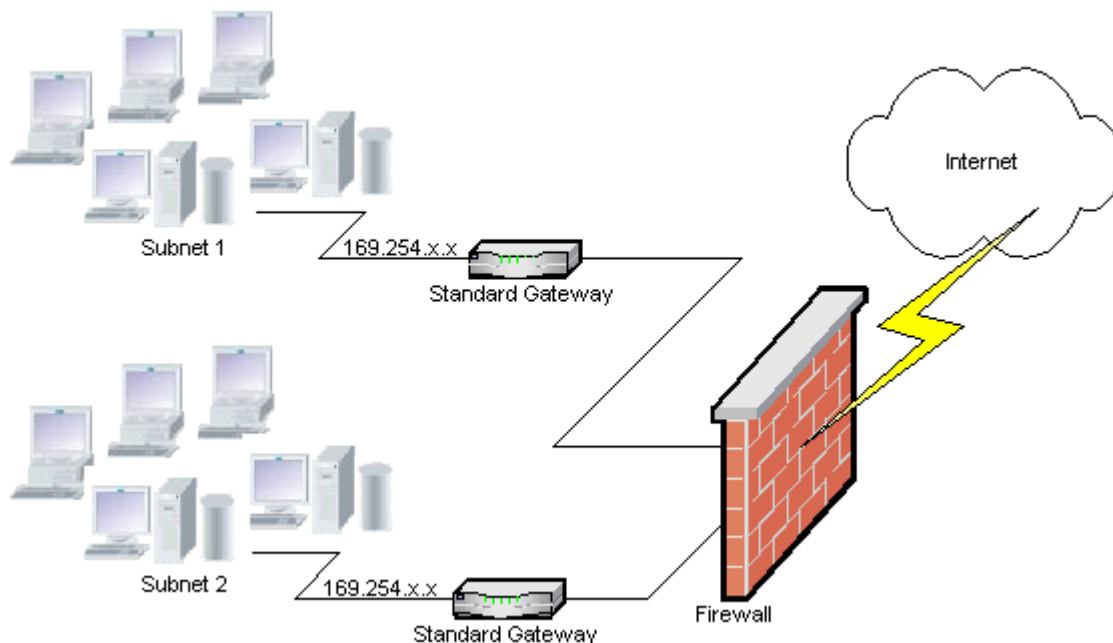
システムの基本特性

- Windows の標準インストールでは、コンピュータには DHCP サーバーからのランダムな IP アドレスが割り当てられます。

必要条件

以下の条件では、WinCC が操作中に望ましくない動作をすることがあります。

- 端末ネットワークで使用される IP アドレス帯域が APIPA アドレス帯域(169.254.x.x)よりも高い。
- IP アドレスがデフォルトゲートウェイ経由でルートされる。
- APIPA 帯域からの IP アドレスがファイアウォールにルートされる。



ファイアウォールで負荷が増加する原因

システム起動の後、各 WinCC テーションからネットワーク内の他のすべての WinCC ステーションに対して IP アドレスが一度送信されます。WinCC ステーションは、IP アドレスが最も小さい WinCC ステーションをプロジェクトの可用性を調整するサーバーとして定義します。

WinCC ステーションが DHCP サーバーからアドレスを受け取らず、APIPA プロセスに入れない場合は、そのステーションが調整サーバーになります。その結果、他のすべての WinCC ステーションは、このサーバーに周期的にアクセスしてプロジェクトを発行しようとしています。



ただし、APIPA 帯域からの IP アドレスは自動的にファイアウォールに転送されるため、統合サーバーをアドレス指定することはできません。これも、中央のファイアウォールでネットワークの負荷が増加する原因になります。

#### ソリューション

この動作は、各 WinCC ステーションに独自の IP アドレスを割り当てることで避けることができます。

### 無停電電源システムに関する情報

以下の事項に注意してください。

#### 停電中のファイル破損の回避

WinCC システムが有効で Windows システムの使用中に停電が発生した場合、ファイルが破損したり失われることがあります。NTFS ファイルシステムを使用して操作すると、安全性が高まります。

安全で継続的な操作を保証するには、無停電電源装置(UPS)を使用するしかありません。

#### クライアントサーバーシステムの無停電電源装置

クライアントサーバーシステムのサーバーを UPS システムによりバッファリングするには、UPS は 30 分までの停電に対処できる必要があります。この値は、コンピュータ、特にマルチユーザーシステムのコンフィグレーションと数によって異なります。コンフィグレーションにはかなりの時間を要します。

## 1.3 WinCC に関する注意点

### 1.3.1 WinCC および設定に関する一般情報

#### 一般情報

#### WinCC システムのリモートメンテナンス

コンソールセッション経由でリモートデスクトップクライアントのある WinCC システムにアクセスすることができます。ユーザーがローカルでログオンしていない。

「RealVNC」 Enterprise Edition V4.6.3 ソフトウェアがリモートサービスアクセス用にリリースされます。以下のカスタマーサポートページでインターネット上での「RealVNC」の使用に関する注記をさらに見出すことができます。

- エントリー ID 55422236 (<http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/55422236>) (<http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/55422236>)

#### UNC パスのみを使用した WinCC プロジェクトのリモートな移行

WinCC プロジェクトをリモートに移行する場合は、UNC パスのみを使用します。プロジェクトパスやその上にあるフォルダは解除してください。この UNC パスを WinCC プロジェクトマイグレータのプロジェクトディレクトリとして使用します。

#### WinCC 起動時のオペレーティングシステム更新不可

WinCC が起動している場合はオペレーティングシステムの更新が禁じられています。オペレーティングシステムの更新後にコンピュータを再起動します。

#### WinCC 文書: WinCC 情報システム

オンラインヘルプの情報は、印刷可能な PDF ファイルの情報より新しくなっています。

#### 開放性およびシステム安定性

WinCC を使用すると、コンポーネントに関係なく、完全な関数や、グローバルアクションスクリプト、個々のグラフィックオブジェクトに高パフォーマンスのアクションをプログラムすることができます。

#### C スクリプト:

WinCC および Windows の API 関数は、アクションスクリプトで呼び出すことができます。さらに、統合されたスクリプトプログラミングには、C インタープリタおよび多数の ANSI-C 標準関数が含まれています。

システムの開放性のため、継続ループや正しく初期化されていないポインタなどによって、システムをブロックしたり、ランタイム時にシステムをクラッシュするアクションを書く可能性がある点に注意してください。割り当てられたメモリの可用性に注意してください。

#### VB スクリプト

VBScript(VBS)を使用すると、ランタイム中にグラフィカルランタイムシステムのタグおよびオブジェクトにアクセスできます。VBS の標準関数や定数に加えて、Windows Scripting Host や MS Automation インターフェースを使用して Windows 環境をダイナミック化することもできます。

Windows 環境への適用に関する VBS の機能性については、保証や WinCC サポートはありません。

詳細は WinCC 情報システムの以下のセクションを参照してください。

- 「ファンクションとアクションを作成するための ANSI-C」
- 「プロシージャおよびアクションを作成するための VBS」
- 「画像ダイナミックスの処理」

## 時間同期化

以下が正しく機能するためには、サーバーとオートメーションシステムの間の時間の同期化が不可欠です。

- 冗長の同期化
- 年代順メッセージ
- タイムコードを使用した標準の検索およびソート
- 1つのドメインでのマルチユーザープロジェクトの操作

詳細は WinCC 情報システムの以下のセクションを参照してください。

- 「冗長システム」
- 「時系列レポート」
- 「マルチユーザーシステム」
- 「時間同期化」

### 1.3 WinCC に関する注意点

#### 冗長システムの完全ダウンロード

ターゲットシステムにデータの不整合が生じるため、"ターゲットシステム/オブジェクトのコンパイルとダウンロード"機能を使って **SIMATIC Manager** で冗長システムへの完全ダウンロードプロセスを実行しないでください。

代わりに、オペレーティングシステムのショートカットメニューの **SIMATIC Manager** から[ダウンロード]オプションを選択します。

#### プロジェクト例のインストール

プロジェクト例は WinCC DVD の"Samples\WinCC"ディレクトリにあります。

#### WinCC システムへの OPC XML DA サーバーのインストール

WinCC システムに OPC XML DA サーバーのインストールを追加する場合は、WinCC 製品 DVD を使用してください。アプリケーションは、Windows のコントロールパネルでインストールしないでください。

#### マルチユーザーシステムに関する情報

##### マルチユーザーシステムで独自のプロジェクトなしクライアント

マルチユーザーシステムの場合は、独自のプロジェクトなしクライアントの場合、冗長性の切り替え後に最初のピクチャの選択で遅延する場合があります。

マルチユーザーシステムで独自のプロジェクトを持たないクライアントのランタイム言語を変更するには、クライアントで WinCC を終了し、サーバーで WinCC プロジェクトを終了する必要があります。言語はそれまで変更されません。

##### プロジェクトを所有しないクライアント: 複数 Windows ユーザーによる操作

クライアントが独自のプロジェクトを持たない場合は、ユーザーはランタイムを終了し、Windows からログオフします。別のメインユーザーまたは管理者権限を持たないユーザーがこのクライアントにログオンしてランタイムを起動する場合、一部の WinCC コンポーネントが完全に機能しない可能性があります。

"Work.dcf"ファイルのこのユーザーのセキュリティ設定を確認します。ファイルは SIMATIC HMI グループに含まれていなければなりません。SIMATIC HMI グループは "Work.dcf"ファイルの"変更"権限を持っている必要があります。Windows のインストールディレクトリに非表示のシステムファイル"Work.dcf"があります。

#### Windows 7 (インストールに応じて変わる)

- "ProgramData"
- "userdata"
- "Windows/Temp"

#### Windows XP

- "Windows/Temp"。

#### リモートデスクトップ接続の中断後のデータ消失

たとえば、リモートデスクトップクライアントからネットワークケーブルが外れたなどの理由で、リモートデスクトップ接続が中断すると、たとえばアーカイブや OPC サーバーは Data Manager からの値を受信できなくなります。この状態は、接続が回復するか、35 秒のタイムアウトになるまで続きます。

#### 独自のプロジェクトなしクライアントからのリモートアクセス

独自のプロジェクトなしクライアント上の WinCC エクスプローラでは、サーバーデータエディタは使用できません。

タグロギングおよびアラームロギングで"アーカイブコンフィグレーション"エントリを使用することはできません。

#### SIMATIC Manager への統合に関する注記

##### シンボルデータブロック名: 最大長 16 文字

タグをデータブロックから WinCC に転送する場合、シンボル名が 16 文字を超えてはなりません。

#### DCF ファイルの作成

DCF ファイルが移行後に読み取ることができない場合は、壊れたファイルに関するメッセージが移行ログファイルに書き込まれます。別の DCF ファイルを作成するには、以下を実行します。必ずこの順序どおりに実行してください。

1. コンフィグレーションモードでプロジェクトを開きます。
2. 後のエクスポートで必要となる、独自のシンボリックコンピュータ名(サーバー接頭辞)を覚えておきます。
3. インポートしたサーバーデータの保存場所を記憶しておきます。

### 1.3 WinCC に関する注意点

4. 優先サーバーとデフォルトサーバーを覚えておきます。
5. 独自のサーバーデータおよびインポートしたサーバーデータを削除します。
6. プロジェクトを閉じます。
7. プロジェクトディレクトリで DCF ファイル(一般的には ProjectName.dcf)を削除します。
8. コンフィグレーションモードでプロジェクトを再度開きます。
9. 元のシンボリックコンピュータ名(サーバー接頭辞)(手順 2 参照)を維持しながら、独自のサーバーデータを作成します。
10. インポートしたすべてのパッケージを再びインポートします(手順 3 参照)。
11. 優先サーバーとデフォルトサーバーを再構成します(手順 4 参照)。
12. プロジェクトを閉じます。

### メッセージシステムおよびアーカイブシステムのパフォーマンスデータ

パフォーマンスデータは、メッセージシステムには最高負荷とサージの最大値と、アーカイブシステムにはデータベースへのアーカイブ時の最大値を指定します。

指定した値は、中央のプロセスのアーカイブまたはメッセージアーカイブのために中央のアーカイブサーバーが使用されるときにのみ適用されます。

### CPU 負荷

サーバーからクライアントに転送されたデータを同じ速度で処理できない場合、このクライアントのデータフレームは、指定された閾値から破棄されます。

次のプロセスコントロールメッセージが、メッセージとともに表示されます。

- 1000200: 「WCCRT:ステータス」

このメッセージのコメントまたはログファイル「WinCC\_Sys\_<x>.log」に、以下の追加情報が記載されています。

- 1000200,4,,<コンピュータ名>、DataManager Runtime、RPC の呼び出しでは 5000 ミリ秒以上かかる場合があります。  
(クライアントはデータの処理に長時間かかります)
- 1000200,4,,<コンピュータ名>、DataManager Runtime、クライアント「<クライアント名>」の更新データの消失、  
(クライアントのメッセージフレームはサーバーで破棄されます)

クライアントではデータが失われることがあります。中央アーカイブサーバーにクライアントが関与する場合、古い値がプロセス値アーカイブに保存される場合があります。

このため、CPU 負荷に対し十分な余裕が中央アーカイブサーバーにあることを確認してください。

下記も参照

<http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/55422236> (<http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/55422236>)

## 1.3.2 WinCC CS

### 一般情報

複数の WinCC エディタを同時に使用しないでください。

複数のエディタが同一の WinCC コンポーネントにアクセスする可能性があるため、"テキストディストリビュータ"と"相互参照"エディタの使用やグラフィックデザイナーが複数のインターフェースから同時にアクセスされているときに相互参照の自動更新を行うなど、複数の WinCC エディタを同時に使用しないでください。

### グラフィックデザイナーに関する情報

#### カスタムの ActiveX コントロール(SIMATIC WinCC/ODK)

カスタムの ActiveX コントロール(SIMATIC WinCC/ODK)については、WinCC 基本システム、WebNavigator サーバーおよび WebNavigator クライアントとの互換性を検証する必要があります。これは、ActiveX コントロールの WinCC、Web サーバーまたは Web クライアントをインストールしたコンピュータへの直接インストール、および Web クライアントなどのプラグインを使用したインストールの両方に当てはまります。

- このため直接インストールの場合、ActiveX コントロールを、WinCC 基本システム、Web サーバーまたは Web クライアントよりも前にインストールする必要があります。このステップ後、カスタム ActiveX コントロールがエラーなしで機能しない場合は、互換性はありません。
- カスタム ActiveX コントロールがプラグインにパッケージされて、ダウンロードによってインストールされた場合、WinCC 基本システム、Web サーバーまたは Web クライアントのアップグレードでも、この ActiveX コントロールを使った新しいプラグインを生成する必要があります。プラグインを生成する際には、互換バイナリ(DLL、OCX など)を使用するように注意する必要があります。

## グローバルスクリプト C エディタに関する情報

## スクリプト実行のためのダイナミック言語設定

グローバルスクリプト C エディタで、スクリプトの言語設定として[ダイナミック:プロジェクト設定]を選択することができます。C スクリプトは英語でコンパイルされます。一元的に構成される言語のコードページは、ランタイムに文字列で使用されます。

WinCC エクスプローラの[プロジェクトプロパティ]ダイアログで、プロジェクト設定を指定できます。[ランタイムのダイナミック言語設定を使用した C スクリプト]の下の[オプション]にあるリストから次を選択できます。

- [それぞれ構成された WinCC Runtime 言語]。C スクリプトは、WinCC Runtime 言語で実行されます。
- Unicode 以外のプログラム用のオペレーティングシステム言語
- C スクリプトは、オペレーティングシステムのコードページ設定と共に実行されます。リストから言語を選択します。

## アラームロギングに関する注記

## [ループインアラーム]/[画面を開く]機能: 異なる言語での画像名

異なるコードページから、名前の付いた複数の画像を使用する場合、異なる[画面を開く]機能で画像名を使用することをお勧めします。適切な言語で対応する[画面を開く]機能をコンパイルし、メッセージに割り付ける必要があります。

## WinCC V7.2 の新しいシステムメッセージ

追加のメッセージが、WinCC V7.2 の既存の文書化された新しいシステムメッセージに追加されています。

番号	エラーメッセージ/説明
1000301	WCCRT: 接続の合法性が失敗しました。パスワードが正しくありません。
1000302	WCCRT: PLC が保護されています。接続のためにパスワードを構成しなければなりません。
1000303	WCCRT: 接続の合法性が失敗しました。パスワードがブロックされています。ローカルに (たとえば、ディスプレイ上で) ブロック解除します。



番号	エラーメッセージ/説明
1003300	NRMS7PLUS: 検出されたメッセージに対するコンフィグレーションデータが変更されました。
1003301	NRMS7PLUS: メッセージを受信するためのログオン中にエラーが発生しました。
1016000	IDB: Provider の初期化が接続で失敗しました:
1016001	IDB: Consumer の初期化が接続で失敗しました:
1016002	IDB: Provider のデータ転送が接続で失敗しました:
1016003	IDB: Consumer のデータ転送が接続で失敗しました:
1016004	IDB: データベース Provider の初期化が接続で失敗しました:
1016005	IDB: データベース Consumer の初期化が接続で失敗しました:
1016006	IDB: データベース Provider のデータ転送が接続で失敗しました:
1016007	IDB: データベース Consumer のデータ転送が接続で失敗しました:
1016008	IDB: ダイナミックデータベース Provider の初期化が接続で失敗しました:
1016009	IDB: ダイナミックデータベース Consumer の初期化が接続で失敗しました:
1016010	IDB: ダイナミックデータベース Provider のデータ転送が接続で失敗しました:
1016011	IDB: ダイナミックデータベース Consumer のデータ転送が接続で失敗しました:

### クロスリファレンスに関する注記

#### Windows 7 / Windows Server 2008 : データ管理を更新するときのセキュリティ上の問題

WinCC プロジェクトに ActiveX コントロールがある場合、データ管理の更新中に ActiveX コントロールに対するセキュリティ通知が表示されます。

通知を承認するために必要な場合、ダイアログを前面に移動します。

クロスリファレンスの更新中に、グラフィックデザイナーが起動していることを確認します。

#### 再配線: オブジェクトプロパティで使用されるタグ

オブジェクトの複数のオブジェクトプロパティで使用されるタグを再配線する場合、以下の動作に注意します。

タグは、選択された使用ポイントだけでなく、このオブジェクトのすべてのプロパティで変更されます。

## VBA に関する情報

### VBA アップデート

VBA のセキュリティ更新のインストールは、ユーザーの責任で行ってください。

VBA に対応するセキュリティ更新は、Microsoft のダウンロードページで使用可能になります。Siemens では、Microsoft からセキュリティ更新を提供しません。

WinCC のインストール後に VBA のセキュリティ更新をインストールしてください。

## チャンネルに関する注記

### 国別の文字を使用したチャンネルの名前

「SIMATIC S7 Protocol Suite」チャンネル、特に「指定の接続」チャンネルユニットに国別の文字を使用した名前を入力するとき、オペレーティングシステムの言語オプションで対応するコードページを設定しなければなりません。

## ODK に関する情報

### 特定のユーザーが使用できない ODK ファンクション

Windows の標準的なユーザー権限があるユーザーには、以下の ODK ファンクションは利用できなくなりました。

- CreateDatabase
- DatabaseAttach
- DatabaseDetach

### 1.3.3 WinCC ランタイム

#### マルチユーザーシステムに関する情報

##### ターミナルバスでの大容量データのコピー

ターミナルバスに接続されたコンピュータ上で大容量のデータをコピーすると、マルチユーザーシステムの通信に影響を与える可能性があります。原因の1つとして、データスループットが小さいハブを使用していることが考えられます。

#### シングルユーザープロジェクトに関する注記

##### OPC および OLE DB ではプロセス値にアクセスできません

OPC および OLE DB を使用してシングルユーザープロジェクトのプロセス値にアクセスすることはできません。

#### タグロギング/アラームロギングに関する情報

##### 以前保存したアーカイブデータの編集

データの安全性と整合性のため、以前保存したアーカイブされた測定値/メッセージは変更できず、変更するべきではありません。

#### レポートシステムに関する情報

##### プロジェクトのないクライアントの EMF ファイルのアーカイブ

マルチユーザーシステムおよび独自のプロジェクトを持たないクライアントでは、EMF ファイルは、クライアントのディレクトリ "Windows-Temp\PRT\_OUT\<アーカイブ>\<日付および時間>" に保存されます。

EMF ファイルを作成した後、このファイルを、サーバー上のプロジェクトディレクトリへ移動する試みが行われます。冗長システムの場合、ファイルは現在のマスターに移動します。クライアントのファイルは削除されます。

ファイルをサーバーに移動できない場合、ファイルはクライアントの Windows の Temp ディレクトリに残ります。次の EMF ファイルが作成された後に、すべての EMF ファイルのディレクトリへの保存が試行されます。

### 1.3 WinCC に関する注意点

さらに、移動が正常に行われなかった場合、OS コントロールメッセージ"1004003"が生成されます。プロセスコントロールメッセージには、EMF ファイルのあるクライアントのディレクトリが指定されます。クライアントがすべてのサーバーから切断されると、このプロセスコントロールメッセージはサーバーでも生成できなくなります。この場合、メッセージは、診断ファイル"WinCC\_Sys\_XX.log"にあります。

## OPC に関する情報

### SIMATIC WinCC OPC サーバー: DCOM 権限の自動割り付け

OPC サーバーの操作に必要な DCOM 権限は、自動的に割り付けられます。インストール中に設定されます。WinCC の操作モードに応じて、さらに詳細なコンフィギュレーションが行われます。

これらの設定を手動で編集しないでください。

### OPC チャンネルを使用するときは、SIMATIC WinCC OPC サーバーをアンインストールしないでください

OPC チャンネルを使用する際、SIMATIC WinCC OPC DA サーバーを削除しないでください。

### OPC タグ: アラームロギングおよびタグロギングのタイムスタンプ

メッセージが OPC タグによって始動する場合、OPC サーバーはメッセージのタイムスタンプを使用し、ほぼ時系列のレポートを出力します。

タグロギングでは、タグロギングサーバーでタイムスタンプが生成されます。

## OPC データアクセス

WinCC クライアントで OPC DA サーバーを実行している場合:

OPC クライアントの接続の確立中、OPC サーバーがデータを交換する WinCC サーバーは、実行中でなければなりません。WinCC サーバーが実行中でない場合、項目のプロパティの一部が提供されません。

OPC Item Manager におけるデータタイプ表示には時間がかかるので、必要ない限り表示をオフに切り替えてください。

## OPC XML データアクセス

### 新しく作成されたタグの表示

WinCC プロジェクトのランタイムで新しいタグを用いて新しいタグフォルダを作成する場合、OPC クライアントシステムで WinCC Runtime を再起動しなければタグフォルダとタグは OPC クライアント上で表示されません。OPC クライアント上で"OPCTags"が開かれないように確認します。

### タグの追加

OPC Item Manager でタグを追加するのであれば、OPC サーバーで WinCC Runtime を有効にする必要があります。

### オーソリゼーション方法

オーソリゼーション方法"統合された Windows オーソリゼーション"で WinCC セットアップを使用し、XML DA Webservice をインストールします。WinCC OPC XML クライアントではこの方法がサポートされます。これを実行するには、OPC クライアントを実行しているユーザーアカウントを XML サーバーコンピュータが認識する必要があります。

**Windows XP: プロトコル"Microsoft TCP/IP Version 6"をインストールしてはなりません。**

Windows XP で XML DA Web サービスを使用する場合は、"Microsoft TCP/IP Version 6"プロトコルがインストールされていない必要があります。

## OPC 履歴データアクセス

### OPC を使用したアーカイブアクセス中の戻り値 OPC\_E\_MAXEXCEEDED

OPC クライアントが、同期または非同期読み取り中に 2000 を超える値のデータを要求する場合、呼び出しがエラーメッセージ OPC\_E\_MAXEXCEEDED が生成され拒否されます。この限界値により、コンピュータの負荷および呼び出しの期間が制限されます。

時間範囲全体が読み取られる場合、この制限は適用されません。

## OPC Alarm&Event

### 「アーカイブメッセージの読取りメソッド」ドキュメントの改訂

以下のコンテンツは、「アーカイブメッセージの読取り」に関するドキュメントの「アーカイブメッセージの読取りメソッド」ページで変更されています。

### 1.3 WinCC に関する注意点

- "読取り"モード
  - 「2. 更新」について追加されたテキスト: **Refresh** フラグの付いたイベントパッケージにはイベントの履歴のみが含まれます。 イベントはまだ保留中の可能性があります。履歴メッセージの最後の **Refresh** パッケージは"**Last Refresh**"の識別子を受け取ります。
- "アドバイス"モード
  - 「2. **SetState** を使用したサブスクリプションの有効化設定」の後の以下のテキストは無効です: 「サブスクリプションを無効化すると、転送が中断されます。」および「最終パッケージにも追加フラグ"**Last Refresh**"が含まれます。」。

#### バウンディング値の使用の回避

WinCC-OPC-A&E サーバーから履歴アラームを読み込む場合は、バウンディング値の使用を避けてください。

使用すると、アーカイブのサイズによっては、読み取りアクセス要求の処理に時間がかかることがあります。

#### ユーザーテキストブロックで、形式指示を使うときのメッセージのフィルタ

メッセージの OPC ソースは、ユーザーテキストブロックに表示されます。これは、デフォルト設定のユーザーテキストブロック 2 です。

このユーザーテキストブロックで形式指示を使用する場合は、フィルタ設定にワイルドカードを使用する必要があります。

これにより、OPC ソースがランタイムで動的に作成されたときに正しいフィルタ作業が行われます。

### 1.3.4 スマートツール

#### WinCC コンフィグレーションツールと WinCC アーカイブコンフィグレーションツールに関する注記

**Visual Basic for Applications** を **Microsoft Office** と共にインストールする必要があります。

Microsoft Excel で WinCC コンフィグレーションツールと WinCC アーカイブコンフィグレーションツールを使用するには、**Microsoft Office** をインストールするときに **Visual Basic for Applications** もインストールする必要があります。

## WinCC コンフィグレーションツールに関する情報

### WinCC コンフィグレーションツールを開く

WinCC コンフィグレーションツールを使用して作業している場合は、次の WinCC エディタを閉じる必要があります。

- タグ管理(WinCC エクスプローラまたはタグ管理ダイアログ)
- アラームロギング
- タグロギング
- テキストライブラリ

新しいプロジェクトを作成するには、次の手順に従います。

1. WinCC を閉じます。
2. Excel と WinCC コンフィグレーションツールを開きます。
3. 新規プロジェクトフォルダを作成し、プロジェクトへのリンクを設定します。
4. コンフィグレーションツールを操作します。
5. コンフィグレーションツールを閉じます。
6. 今後さらに処理を行うために WinCC を開始します。

### 限界値モニタ

必要なアナログアラームが、WinCC コンフィグレーションツールによって同時に作成されます。アラームロギングにアナログアラームが表示されない場合は、[追加]にある[ツール]メニューの[限界値のモニタ]オプションを有効にします。

## WinCC アーカイブコンフィグレーションツールに関する情報

### "DLL パラメータの標準化"に AR\_ID を 10 進数として入力

[DLL パラメータの標準化]列に、未処理のデータタグの AR\_ID を 10 進数として入力する必要があります。タグロギングでは、AR\_ID は 16 進数として表示されます。

### ダイナミックウィザードエディタに関する情報

#### ダイナミックウィザードエディタを開きます。

ダイナミックウィザードエディタとグラフィックデザイナーは同時に開かないでください。

## 1.3 WinCC に関する注意点

### タグのエクスポート/インポートに関する情報

#### タグのインポート

"タグのエクスポート/インポート"スマートツールを使用してタグをインポートする場合は、WinCC プロジェクトを閉じる必要があります。

### タグシミュレータに関する情報

#### 一般情報

タグ値の更新時間は 1 秒です。機能を有効にした場合のみ変更は有効になります。  
最大 300 のタグを構成できます。

### 通信コンフィグレータの使用上の注意

#### 通信コンフィグレータの使用に関するヒント

通信コンフィグレータを使用してネットワーク接続の設定を指定する場合は、以下の点を守ってください。

##### 必要条件

- Windows エクスプローラが閉じていること。
- すべての SIMATIC アプリケーションが閉じている。
- CCAgent、CCEServer、CCEClient サービスが終了している。

##### サービス CCAgent、CCEServer、CCEClient の終了

1. オペレーティングシステムの[スタート]メニューから[設定]>[コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。  
[サービス]ダイアログが開きます。このダイアログのデータウィンドウには、"CCAgent"、"CCEServer"、"CCEClient"などのタスクが表示されます。
2. 各タスクのショートカットメニューで、[閉じる]を選択します。  
このサービスは、次回 WinCC を起動したときに自動的に開始されます。

##### 設定の指定

通信コンフィグレータにおいて、次の設定を選択します。



- スライダを使用し、通信用に最も遅い送信速度を選択します。
- 通常、[サーバーがクライアントを ping]チェックボックスは有効になっています。クライアントの有効なライフビートモニタリングを実行できないサーバーで作業している場合は、このオプションを無効にしてください。たとえばサーバーが"ping"を使用して"DialupClient"とやり取りできない場合がこれに当てはまります。このクライアントでは、このオプションは不適切です。

#### コンピュータを再起動します

コンピュータを再起動し、CCAgent のコンフィグレーションダイアログで設定した IP アドレスをチェックします。詳細は、「複数のネットワークアダプタのあるサーバーとの通信のための特殊機能」の章を参照してください。

---

#### 注記

通信コンフィグレータでは、中央の通信のコンフィグレーションのみがサポートされます。ただし、WinCC のランタイム機能およびパフォーマンスも他の要因から影響を受けることがあります。

---

### 1.3.5 プロセス通信

#### WinCC チャンネル「SIMATIC S7-1200、S7-1500 Channel」に関する注意事項

#### WinCC V7.2 の SIMATIC S7-1200 と SIMATIC S7-1500 との通信

生産的な運用では、WinCC V7.2 と SIMATIC S7-1500 の通信、または WinCC V7.2 と SIMATIC S7-1200 の通信は、単一ユーザーシステム用にのみリリースされます。

#### 「SIMATIC S7-1200、S7-1500 Channel」チャンネルの制限

1 つのネットワークカードあたり、Softnet 経由で同時に最大 16 個の CPU をサーバーに接続できます。

CPU あたりのサーバーの最大数：

- S7-12xx V2.2: 1
- S7-12xx V3: 2
- S7-1511 (64 の ISO-on-TCP 接続、そのうち 4 つは ES 用に予約): 20
- S7-1513 (96 の ISO-on-TCP 接続、そのうち 4 つは ES 用に予約): 30
- S7-1516 (128 の ISO-on-TCP 接続、そのうち 4 つは ES 用に予約): 41

### 1.3 WinCC に関する注意点

S7-1200 PLC との通信には、コントロール当たり最大 200 タグを設定できることに注意してください。複数の HMI デバイスが 1 台の PLC にアクセスする場合は、この制限値はすべての HMI デバイスに適用されます。

最大 4 台の HMI デバイスが 1 台の S7-1200 に同時にアクセスできます。WinCC Runtime で最大 32 台の PLC をアドレス指定できます。

### WinCC 「SIMATIC S7 Protocol Suite」チャンネルに関する情報

#### S7 オートメーションシステムでの AR\_SEND を使用した時間の変更

たとえば時間の同期化後に AS 上で時間をリセットする場合、AR\_SEND を使用して S7-AS から WinCC に転送されたアーカイブデータは無視されます。アーカイブには既にリセット時間が含まれています。

#### S7-300 オートメーションシステム: 未処理データ通信/指定接続用にリリースされている CPU

指定接続を使用した"BSEND/BRCV"未処理データ通信は、以下の S7-300 CPU に対してサポートされています。

- CPU319-3 PN/DPV2.5 以降
- CPU317-2 PN/DPV2.6 以降
- CPU315-2 PN/DPV3.1 以降

S7-300 コントローラでは、ファームウェアバージョン V3.x 以降を推奨します。

### WinCC"SIMATIC S5 PROFIBUS DP"チャンネルに関する情報

#### PROFIBUS DP および SIMATIC Net V8.2

SIMATIC NET V8.2 を備える"PROFIBUS DP"チャンネルを使用するには、SIMATIC NET V8.2 の通信設定で"DP"プロトコルに対して"OPC UA"プロパティを無効にする必要があります。

### WinCC"SIMATIC 505 TCPIP"チャンネルに関する情報

#### LMode および LStatus データタイプ

LMode および LStatus データタイプにより、チャンネルが拡張されました。

- **LMode**(ループモード) : 符号なし 16 ビット値(ビット配列);アクセス : 書き込みおよび読み取り
- **LStatus**(ループステータス) : 符号なし 16 ビット値(ビット配列) ; アクセス : 読み取り専用

アドレス指定中に指定するオフセットにより、モードまたはステータスが要求されるループが識別されます。

## SIMATIC NET "IE SOFTNET-S7 LEAN"に関する情報

### ライセンス

インストール中は、SIMATIC NET "IE SOFTNET-S7 LEAN"のライセンスが自動的に転送されません。必要に応じて、このライセンスを Automation License Manager を使用して転送できます。

### 通信診断に関する情報

#### SIMATIC NET ソフトウェアを使用した通信プロセッサ診断

WinCC の通信の診断中、"PG/PC Panel"アプリケーションを使用して通信プロセッサが検証されます。

WinCC V7 には、SIMATIC NET および NCM PC ソフトウェアの新しいバージョンが含まれています。このソフトウェアに含まれている"Set PC Station"アプリケーションには、通信プロセッサをテストするための包括的な診断オプションが追加されています。詳細は、SIMATIC NET ヘルプを参照してください。

## 1.4 WinCC 冗長性に関する注記

### 二重障害の場合の冗長性の動作

冗長性では二重障害には対応できません。

二重障害は、たとえば、サーバー 2 が起動していないときにサーバー 1 の端末バスが引き抜かれたときに起こります。

### アーカイブのスワップアウトの遅延

冗長パートナが利用できないか、起動していない場合は、アーカイブのスワップに遅延が発生します。パートナが再び使用可能になりアーカイブの同期化が完了するまで、アーカイブのスワップは開始または継続しません。

タグロギングおよびアラームロギングの循環バッファのメモリ容量には限度があるため、冗長パートナで長期間障害が発生した場合、データが失われることがあります。

### ネットワーク障害発生後のメッセージの再ロードなし

ネットワーク障害後メッセージの再ロードは冗長システムで許可されていません。

### 標準ゲートウェイの設定

冗長性のある場合、障害シナリオを正しく検出するために標準ゲートウェイを設定することをお勧めします。この場合、両方の冗長サーバーに標準ゲートウェイを正しく設定する必要があります。これは、手動でまたは DHCP 経由で実行できます。

設定された標準ゲートウェイに接続することができるのみでなく、"ping"を使用してアクセスできることも確認してください。

### DHCP の使用: 有効なネットワーク接続があるコンピュータのみを起動

ターミナルバスネットワークカードで DHCP を使用している場合、冗長システムで以下に注意します。

コンピュータは、起動中に DHCP サーバーから有効な IP アドレスを取得する必要があります。

IP アドレスを取得しなかった場合、冗長ステータスは常に[障害]と表示されます。このステータスをリセットするには、必ずコンピュータを再起動する必要があります。

### 冗長システムでのメッセージシーケンスレポート

メッセージシーケンスレポートをクライアントで出力する場合、冗長パートナーに切り替えるときのロギング中に問題が発生する可能性があります。

## 1.5 プロセスコントロールオプションに関する注記

### 新しいプロジェクトの作成

新しいプロジェクトを手動で作成する場合、まず OS プロジェクトエディタを実行する必要があります。

PCS7 エンジニアリングステーションを使用して OS を作成している間に、プロジェクトは自動的にバックグラウンドで呼び出され、デフォルト設定を使用して初期化されます。

### 移行前に不必要な「@\*.PDL」画像の削除

OS プロジェクトエディタが WinCC プロジェクトを処理すると、基本プロセスコントロールの"@\*.PDL"の画像がグラフィックデザイナーにインストールされます。移行後にこれらの画像が必要でない場合は、移行前に"@\*.PDL"の画像だけでなく、"PAS"ファイルと"SSM.cfg"も削除してください。移行後は、基本プロセスコントロールのファイルは追加されません。

### OS プロジェクトエディタ: SIMATIC Logon でのアラームフィルタのデフォルト設定

SIMATIC Logon を使用している場合、OS プロジェクトエディタの実行中に以下に注意します。

SIMATIC Logon でログオンした「デフォルトユーザー」は通常、オーソリゼーションレベルが「領域の No. 2 オーソリゼーション」です。

#### 推奨される操作

認証されたユーザーだけに確認を制限するには、OS プロジェクトエディタを実行する前に、[メッセージ表示]タブでメッセージフィルタのオプション[分離したリストの確認可能メッセージ]を有効にします。

### 多言語使用

WinCC 情報システムのオンライン文書は、英語、フランス語およびドイツ語のみです。WinCC ASIA バージョンでは、英語および簡体字中国語(中華人民共和国)でオンライン文書を提供します。

フランス語、英語またはドイツ語バージョンの Windows コンピュータで作業しながら OS とは別の言語をインストールする場合、WinCC が Windows と同じ言語で動作している場合でも、WinCC で使用する用語をこの別の言語で表示できます。

特に多言語バージョンの Windows で使用される種々のボタンは、言語設定および WinCC の言語とは関係なく、英語のラベルが付いています。このことは、特にユーザーが[はいいいえ]、[OK/キャンセル]などで対応する必要があるダイアログボックスに影響します。

### @の接頭辞付きタグ

プロジェクトエンジニアは、@接頭辞が付くタグは作成できません。WinCC PCS7 ソフトウェアだけが作成できます。これらのシステムタグを操作することは許可されていません。システムタグは、本製品が適切に作動するために必要なものです。

ライフビート監視を使用して AS 監視および OS 監視を構成するとき、デバイス名は、画像ツリーマネージャの画像や"@名前接頭辞付き内部タグと異なっている必要があります。

### チップカードリーダー Omnikey 3121 USB: WinCC V7.2 用ドライバソフトウェア

次のドライバソフトウェアは、WinCC V7.2 でのチップカードリーダー Omnikey 3121 USB の操作のために承認されています:

- Windows XP、Windows 7(32 ビット)、Windows Server 2003、および Windows Server 2008
  - CT-API\_V4\_0\_2\_2A.exe
  - OMNIKEY3x21\_V1\_2\_6\_5.exe
- Windows 7(64 ビット)および Windows Server 2008 R2
  - CT-API\_V4\_0\_2\_2A.exe
  - OMNIKEY3x21\_V1\_2\_6\_5\_x64.exe

### スマートカード：プラグアンドプレイサービスを無効にする

プラグアンドプレイサービスが有効になっている場合、ドライバのスキャン時に WinCC Runtime でオペレーティングシステムのメッセージが表示されることがあります。これにより、オペレーティングシステムへのアクセスが可能になります。

WinCC では別のスマートカードドライバを必要としないため、スマートカードの"プラグアンドプレイ"サービスが無効になります。

### アラームロギングおよび画像ツリーマネージャのエリア名

アラームロギングおよび画像ツリーマネージャのエリア名は、その最初と最後のいずれにも空白文字を使用できません。

### 分散システムのエリア名

分散システムでは、そのエリアに応じたメッセージのフィルタおよび表示を確実に正確にするため、種々の WinCC サーバーのプロジェクトのエリア名は、一意であることが必要です。

### クライアントが独自のプロジェクトを持たない、Windows XP 上のサーバープロジェクト

Windows XP のコンピュータで複数ユーザーのプロジェクトを実行しており、クライアントが独自のプロジェクトを持たないこのプロジェクトに切り替えられた場合、独自のプロジェクトを持たないクライアントには コンフィグレーションは行なわれません。

### 独自のプロジェクトを持たず、Windows Server 2003 上にないクライアント

独自のプロジェクトがないクライアントは Windows Server 2003 搭載コンピュータ上で操作しないでください。

### 画像描画時間

画像描画時間を最適化するには、WinCC プロジェクトプロパティで WinCC Classic デザインを設定します。

### "No. 8 アーカイブの管理"ユーザーオーソリゼーション

User Administrator のユーザーオーソリゼーション"No. 8 アーカイブの管理"はシステムで使用されなくなりました。

### WinCC ServiceMode でのオーソリゼーション確認

オーソリゼーション確認によりランタイム動作に影響を与える ServiceMode の WinCC には、以下の 3 つのシナリオがあります。



- **Windows** ユーザーがログオンしていない。  
ユーザーが、**WinCC User Administrator** で「サービスコンテキストのユーザー」として定義されている。  
サービスコンテキストでのこのユーザーのオーソリゼーションは、ランタイムで確認されます。この設定は信号デバイスのトリガオーソリゼーションに影響を与えます。
- **Windows** ユーザーがログオンしていない。  
ユーザーが、**WinCC User Administrator** で「サービスコンテキストのユーザー」として定義されていない。  
信号デバイスは常にランタイムで有効にされます。
- **Windows** ユーザーがログオンしている。インタラクティブユーザーの入力が可能です。  
ユーザーがサービスで定義されていれば、コンテキストはランタイムに影響を与えません。  
ログオンした **WinCC** ユーザーのオーソリゼーションは、ランタイムで確認されます。



## WinCC の最新情報

### 2.1 WinCC V7 の最新情報

#### はじめに

次の章では WinCC V7.0 と比較した WinCC V7.2 の最も重要な改善点について概略説明します。

## 2.2 サポートされているオペレーティングシステム

### ソフトウェア必要条件とサポートされているオペレーティングシステム

WinCC V7.2 では、Microsoft SQL Server 2008 R2 SP1(32 ビット)が必要です。SQL Server は WinCC V7.2 パッケージに同梱の DVD に含まれています。

WinCC V7.2 は、以下のオペレーティングシステムで動作します。

- WinCC クライアントプロジェクト
  - Windows 7 SP1 (Ultimate / Professional / Enterprise、32 ビット)
  - Windows 7 SP1 (Ultimate / Professional / Enterprise、64 ビット)
  - Windows XP Professional SP3
- WinCC 単一ユーザープロジェクトおよびクライアントプロジェクト
  - Windows 7 SP1 (Ultimate / Professional / Enterprise、32 ビット)
  - Windows 7 SP1 (Ultimate / Professional / Enterprise、64 ビット)
  - Windows XP Professional SP3
  - Windows Server 2003 SP2
  - Windows Server 2003 R2 SP2
  - Windows Server 2008 SP2
  - Windows Server 2008 R2 SP1
- WinCC サーバーの場合
  - Windows XP Professional SP3
  - Windows Server 2003 SP2
  - Windows Server 2003 R2 SP2
  - Windows Server 2008 SP2
  - Windows Server 2008 R2 SP1

## 2.3 拡張された数量フレームワーク: 18 台の冗長サーバー

### サポートされるコンフィグレーション

WinCC V7.2 は、WinCC ネットワークで WinCC クライアント向けに最大 18 台のサーバーへのアクセスを提供しています。最大 36 台のサーバーを、18 組のリダンダントサーバーペアの形で使用できます。

このコンフィグレーションで、最大 32 台のクライアントが 1 台のサーバーにアクセスできます。Web クライアントを使用するときに、最大 151 台のクライアントをもつ数量フレームワークに達することができます。このコンフィグレーションは、1 台の WinCC クライアントと 150 台の Web クライアントで構成されます。

## 2.4 新しいチャンネル DLL: 「SIMATIC S7-1200, S7-1500 Channel」

WinCC V7.2 は、SIMATIC コントローラ S7-1200 および S7-1500 との通信をサポートしています。

### 「SIMATIC S7-1200, S7-1500 Channel」チャンネル

新しい「SIMATIC S7-1200, S7-1500 Channel」チャンネルは、WinCC ステーションと S7-1200 または S7-1500 オートメーションシステムとの間の通信に使用されます。通信は TCP/IP プロトコルを使用して行われます。

### サポートされるデータタイプ

チャンネルは以下のデータタイプをサポートしています。

- 2 進タグ
- 符号付き 8 ビット値
- 符号なし 8 ビット値
- 符号付き 16 ビット値
- 符号なし 16 ビット値
- 符号付き 32 ビット値
- 符号なし 32 ビット値
- 浮動小数点数 32 ビット IEEE 754
- 浮動小数点数 64 ビット IEEE 754
- テキストタグ、8 ビット文字セット

## 2.5 コンフィグレーションスタジオ: タグ管理の簡易コンフィグレーション

### タグ管理用の新しいエディタ

WinCC V7.2 は新しい「WinCC コンフィグレーションスタジオ」エディタを導入しています。

この表ベースのダイアログにより、接続とタグの作成が容易になっています。データの完全なコンフィグレーションと表示の組み合わせは、大量データ用エディタの機能により行われています。

ユーザーインターフェースは 2 つのエリアに分かれています。1 つは Microsoft Outlook に似ているナビゲーションエリアであり、もう 1 つは Microsoft Excel に似ているデータエリアです。つまりこのエディタは、表計算ソフトで使い慣れた操作方法で使用できるという利点があります。

### タグのコピー

WinCC コンフィグレーションスタジオにより、追加のタグ、タググループ、および構造をすばやく作成することができます。たとえば、構成されたタグのコピーを貼り付けるだけで、同じ設定のタグを複数作成できます。この操作を実行するには、標準のコピーと貼り付けの機能を使用します。

- ショートカットメニュー
- ショートカットキー
- 線のドラッグ

WinCC は、通信に新しいタグを直ちに作成します。WinCC コンフィグレーションスタジオは、入力中に正しくない設定をチェックします。

### 検索およびフィルタ

WinCC コンフィグレーションスタジオは、表計算ソフトで使用できる通常の見つけおよびフィルタ機能を提供します。

フィルタリストボックスを使用して、列で必要な線を選択したり、テキストフィルタに見つけテキストを入力します。

すべての列で見つけができるように、タイトルバーの見つけボックスと[見つけと置換]ダイアログでは、すべての使い慣れた機能を提供します。

## 2.5 コンフィグレーションスタジオ: タグ管理の簡易コンフィグレーション

### タグのインポート

WinCC V12 タグなどの外部アプリケーションから WinCC コンフィグレーションスタジオにデータレコードをインポートできます。データレコードに含まれる接続は、WinCC コンフィグレーションスタジオでの名前で使用可能でなければなりません。ツリー内の [タグ管理] アイテムを右クリックして、ショートカットメニューから [インポート] メニューアイテムを選択します。



## 2.6 グラフィックデザイナーおよびグローバルスクリプトエディタの革新性

WinCC V7.2 では、グラフィックデザイナーおよびグローバルスクリプトエディタでの作業が容易になっています。これは、インターフェースが現在の標準に合わせて調整されているためです。

### 作業環境の調整

ダイアログとウィンドウは、ドラッグで移動し、ランダムにドッキングし、タブでタイトルとして配置できます。

ツールバーとウィンドウの表示はメニューバーによりずっと容易になっています。[リセット]機能を使用し、いつでもエディタの出荷時設定にリセットすることができます。

#### ツールバーの配置

ツールバーのアイコンはより明確に構造されており、グラフィックデザイナーのコンフィグレーションのサポートが改善されています。これにより、同じ機能を持つアイコンを同じツールバーで利用することができます。

### グラフィックデザイナーの新しい機能

グラフィックデザイナーは以下の新しい機能も提供しています。

#### タグのドラッグアンドドロップによる I/O フィールドの挿入

グラフィックデザイナーは、I/O フィールドを作成するための新しい簡単な方法を提供します。

特定のタグの I/O フィールドを作成するには、ドラッグアンドドロップを使用してタグ管理からプロセス画像へタグをドラッグします。WinCC は、タグにリンクされている I/O フィールドを自動的に作成します。

#### プロセス画像のパスワード保護

プロセス画像にパスワードを割り付けることができます。たとえば、この方法で、VBA スクリプトを未承認のアクセスから保護できます。

## 2.7 簡易ランタイム操作：WinCC システムダイアログ、お気に入り、マルチタッチ

WinCC V7.2 は、ランタイムを容易に操作するための多くの新機能を提供しています: 言語の切り替え、WinCC システムダイアログを用いた画像の変更と開始画像へのジャンプ、マルチタッチ機能による操作。

### タッチ操作

次の例のように、WinCC V7.2 により、いつものタッチスクリーンジェスチャを使用することができます:

- スワイプによる画像の変更
- 二本指でドラッグしてズーム

#### マルチタッチ操作

WinCC V7.2 によるマルチフィンガー操作を構成して、ランタイムでのセキュリティを高めることができます。同時クリックして操作をトリガするのに最大 10 個のオブジェクトが構成できます。タッチ機能を使用する場合、マルチタッチをサポートする画面が必要です。

### WinCC システムダイアログ

WinCC V7.2 は、ランタイム動作のための WinCC システムダイアログを導入しています。

オペレータは、ホットキーを使うか、スワイプによってランタイムでシステムダイアログを開きます。

#### プロセス画像のお気に入りの間の画像変更

WinCC エクスプローラでお気に入りとしてマークされているプロセス画像は、WinCC システムダイアログで並べて表示されます。必要なプロセス画像をクリックするだけで、WinCC V7.2 で画像の変更を行うことができます。つまり、オペレータは、ナビゲーションが構成されていない画像間をジャンプできます。

#### 開始画像の呼び出し

オペレータは、WinCC システムダイアログで、いつでも WinCC の開始画像に切り替えることができます。

---

2.7 簡易ランタイム操作：WinCC システムダイアログ、お気に入り、マルチタッチ

**言語切り替え**

作成した各ランタイム言語は、WinCC システムダイアログで該当するアイコンで自動的に表示されます。オペレータは、それぞれの言語のアイコンをクリックするだけで、別の言語に切り替えることができます。

## 2.8 簡素化された多言語での作業

WinCC V7.2 では向上した多言語サポートを提供しています。

### すべての言語の並行 WinCC インストール

Unicode テクノロジーに切り替えることで、ヨーロッパ言語からアジア言語を含め、すべての WinCC 言語版を同じコンピュータに同時にインストールできます。

### 単一の WinCC プロジェクトでのすべての言語エリア

WinCC プロジェクトには、コンピュータで構成されているすべての言語を含めることができます。利用可能なロケールとフォントは同時に構成し、ランタイムで使用できます。

### コンフィグレーション要件のない簡単な言語切り替え

新しい WinCC システムダイアログは、構成されたすべての言語のランタイムでのすばやい切り替えをサポートしています。

テキストライブラリで言語を新規作成すると、すぐに対応するアイコンがシステムダイアログに表示されます。プロセス画面で追加の言語スイッチを構成する必要はありません。

オペレータは、ホットキーやスワイプするジェスチャーを使用し、ランタイムでシステムダイアログを開き、作成されたランタイム言語をいつでもこの方法で切り替えることができます。

## 2.9 プロセス値アーカイブ用の詳細設定機能

### アーカイブ値の手動での追加

WinCC V7.2 では、アーカイブデータベースへ値を追加したり、アーカイブした値をランタイムで編集できます。

ODK や OPC、または WinCC OnlineTableControl などの外部インターフェースを使用して、アーカイブに値を書き込むことができます。

追加または編集された値は、データベースとディスプレイで手動値として識別されます。

### 圧縮されたアーカイブに品質コードを含める

プロセス値の各ステータスが圧縮タグにアーカイブされる割合を指定することができます。

例えば、圧縮タグに「良好」として保存されるためには、値の 80% が「良好」の状態である必要があります。

### カレンダー機能によるサイクリックタイマーのコンフィグレーションのサポート

カレンダーに基づく取得およびアーカイブサイクルのタイマーを指定できます。これを実行するには、タイマーシリーズを使用して新しいタイマーを構成します。

## 2.10 WinCC OnlineTableControl の拡張機能

### 手動による値の変更または値の新規作成

[編集]および[アーカイブ値の作成]キーファンクションを使用すれば、OnlineTableControlで、アーカイブされた値を変更して値を手動で新規作成できます。変更された値にはフラグが付き、アーカイブされます。アーカイブ値が変更または作成されたときにトリガーするオペレータ入力メッセージを構成できます。

該当する時間範囲の圧縮アーカイブの値は、[タグロギング]エディタで再計算を有効にしていることを条件として、再計算されます。

WinCC OnlineTableControl は、さまざまな色を持つ限界値違反の表示のオプションも提供しています。

## 2.11 WinCC/WebNavigator の拡張機能

### Web ビューア: Internet Explorer および WinCCViewerRT

WinCC/WebNavigator V7.2 バージョン用オプションでは、WinCC との Web ベース通信に関する操作性、機能性、安全性が向上しています。

WinCC/WebNavigator V7.2 では、以下の Web ビューアによりプロセス画像にアクセスできます。

- Internet Explorer V7
- Internet Explorer V8
- Internet Explorer V9
- WinCCViewerRT

### 新しいライセンスの区分とアップグレードライセンス

WinCC/WebNavigator V7.2 では、以下の新しいライセンスパッケージによりライセンス区分を拡張しています。

- 1 台のクライアント
- 5 台のクライアント
- 100 台のクライアント
- 150 台のクライアント

これを行うには、さまざまなアップグレードパッケージを利用できます。

- 1 台から 3 台のクライアントへのアップグレード
- 3 台から 5 台のクライアントへのアップグレード
- 50 台から 100 台のクライアントへのアップグレード
- 100 台から 150 台のクライアントへのアップグレード

### ランタイム中のユーザー変更

WinCC/WebNavigator V7.2 の Web クライアントにより、ユーザーはランタイム中にさまざまなユーザー名でログインすることができます。WebNavigator では、これを実行するために、以下のオプションを提供しています。

- WinCCViewerRT: 統合されたボタンを使用してユーザーを変更します。
- Internet Explorer: ODK 関数"PWRTLogout()"を使用した手動ログアウト。
- 一般: 変更したユーザー名でログアウトし、新しくログインします。

### Unicode サポート

WinCC/WebNavigator V7.2 は、WinCC V7.2 を Unicode へ変換することで、多言語プロジェクトの処理がさらに簡単になっています。つまり、単一のプロジェクトであらゆる範囲のインストール済み言語を使用できます。

### パスワード保護されたプロセス画像

WinCC エクスプローラで、発行済みのパスワード保護されたプロセス画像を、WebNavigator を介したアクセス用の追加のパスワードで保護することができます。

### 背景画像

WinCC/WebNavigator V7.2 により、背景画像を追加して Web クライアントをパーソナライズすることができます。これにより、Web クライアントの接続側を調整して企業の ID に一致させることができます。

### WebNavigator ガジェットのプロセス画像シリーズ

WebNavigator ガジェットは、Windows 7 および Windows Server 2008 の WebNavigator サーバーで利用できます。ガジェットでは、発行された WinCC プロセス画像を jpg スナップショットとして表示できます。このスナップショットは WebNavigator サーバーにより周期的に作成されます。

また、WinCC/WebNavigator V7.2 ではこうしたプロセス画像をシリーズとして表示することもできます。



## 2.12 WinCC/DataMonitor の拡張機能

### はじめに

WinCC/DataMonitor V7.2 バージョン用オプションでは、WinCC との Web ベース通信に関する操作性、機能性、安全性が向上しています。

以下のツールを使用し、WinCC/DataMonitor V7.2 でプロセスデータを評価できます。

- Internet Explorer V7
- Internet Explorer V8
- Internet Explorer V9
- WinCCViewerRT
- Microsoft Excel 2003
- Microsoft Excel 2007
- Microsoft Excel 2010

### イベント駆動印刷ジョブおよび Excel ワークブックのタグ選択用のフィルタ

WinCC/DataMonitor V7.2 では、フィルタを使用して、タグ選択に利用できるタグの表示を制限できます。例えば、フィルタ設定"**N\***"は、"**N**"で始まるタグをすべて表示します。

### 手動入力したプロセス値の表示

WinCC V7.2 では、ランタイム中にプロセス値アーカイブに手動値を入力できます。

手動入力した値は、必要に応じて MS Excel の追加の表列で識別されます。

## 2.13 SIMATIC Process Historian: 新しいアーカイブサーバー

### 新しい中央アーカイブシステム

中央アーカイブサーバー(CAS)は、長期的なアーカイブの場合に SIMATIC Process Historian により置き換えられます。

SIMATIC Process Historian は、プロセス値やメッセージのようなプロセスデータを保存するための中央アーカイブシステムです。可用性を高めるために、Process Historian は冗長サーバーペアとしても動作可能であり、RAID("redundant array of independent disks")システムを使用できます。

システムは、大量のデータを持つ WinCC プロジェクトの場合でも、プロセス値とメッセージの高性能バックアップを保証しています。

Microsoft SQL テクノロジーに基づき、Process Historian はプロセスデータの完全なバックアップを冗長アーカイブシステムとしてサポートします。

## 2.14 SIMATIC Information Server: 新しいレポートシステム

### プロセスデータの収集、評価、およびグラフィックな視覚化

SIMATIC Information Server は、Microsoft Reporting Services を使用し、プロセス制御システムの履歴データにアクセスするレポートシステムです。履歴データは、プロセス値、メッセージまたはレシピデータで構成されます。Process Historian、WinCC OS(WinCC サーバー)および PCS 7 OS はデータソースとして使用することができます。

SIMATIC Information Server では、WinCC アーカイブと Process Historian アーカイブを容易に評価できます。

収集したデータは評価され、レポートにより視覚化されます。レポートには、評価するための表形式やグラフィックのコンテンツがあります。

レポートを作成するために、さまざまなレポートテンプレートを使用できます。レポートテンプレートは、以下の 2 つの Information Server アプリケーションによって構成できます。

- Web アプリケーション
- Excel および Word の Office アドイン

## 2.15 WinCC プロジェクトの容易な移行

### 拡張されたプロジェクトマイグレータ

WinCC プロジェクトマイグレータは、WinCC V7.2 への WinCC プロジェクトの移行に必要なほぼすべての変更を自動的に実行します。

ただし、移行を開始する前に、WinCC プロジェクトのバックアップコピーを作成しておくことを推奨します。

## 2.16 その他のイノベーション

### WinCC V7.2 のその他の新機能

上記の革新的な機能以外に、WinCC V7.2 では他のファンクションおよび強化された点があります。

#### グローバル C スクリプトエディタによる Unicode サポート

C エディタツールバーで適切なコードページを設定できます。つまり、システム言語を変更する場合に、Microsoft の[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [地域と言語のオプション]の設定で変更する必要はありません。

スクリプトの言語設定として、[ダイナミック:プロジェクト設定]を選択することができます。これにより C スクリプトは、フランス語(フランス)などの特定のコードページの設定で文字列転送パラメータを使用するだけでなく、ダイナミックにプロジェクト設定に対応します。WinCC エクスプローラの[プロジェクトプロパティ]ダイアログで、プロジェクト設定を指定できます。

#### ユーザーパスワードでの小文字/大文字の考慮

WinCC プロジェクトにアクセスするには、[ユーザー管理者]でユーザーの大文字/小文字によるパスワードを定義できます。

#### OPC ユニファイドアーキテクチャ(OPC UA)機能のサポート

WinCC OPC UA サーバーは、プロセス値およびアーカイブデータの安全な転送をサポートします。

WinCC OPC UA サーバーおよび各 OPC UA クライアントは、証明書を交換することで相互に認証し合います。

#### グラフィックオブジェクトの[塗りつぶし方向]プロパティ

塗りつぶし方向は、境界線が閉じているオブジェクトで、たとえば下から上方向への代わりに左から右方向に、自由に定義できるようになりました。



## WinCC インストールに関する注意点

### 3.1 インストールガイド

#### 内容

このドキュメントには、納入範囲と、WinCC のインストールおよび操作に関する重要な情報が記載されています。

ここに記載されている情報は、マニュアルおよびオンラインヘルプに記載されている情報より優先します。

## 3.2 納入範囲

## 3.2 納入範囲

## 提供されるコンポーネント

WinCC V7.2 には基本パッケージ、アップグレードパッケージ、およびダウンロードパッケージ"OSD" (Online Software Delivery)があります。

提供されるコンポーネントは、以下のとおりです。

コンポーネント	基本/アップグレード/ダウンロードパッケージ
DVD WinCC V7.2: ● WinCC V7.2 ● WinCC/ WebNavigator V7.2 ● WinCC/ DataMonitor V7.2 ● WinCC/ Connectivity Pack V7.2 ● WinCC/ Connectivity Station V7.2 ● Information Server V8.0 SP1 ● SQL Server 2008 R2 SP1 for WinCC V7.2 ● SIMATIC Logon V1.5 SP1 DVD SIMATIC NET V7.1 SP6 DVD SIMATIC NET V8.2 SP1	X
必要なライセンス	X
ライセンス証明書	X
登録フォーム (中国に対してのみ有効)	X



<sup>1)</sup>インストールに関する注意事項とリリースノートのソフトウェア要件を参照してください。

#### 注記

##### インストールに関する注意事項の印刷

各製品のインストールに関する注意事項は PDF ファイル形式でも提供されます。

インストールに関する注意事項とリリースノートは、WinCC DVD の "Install\_and\_Release-Notes"ディレクトリにあります。

Adobe Acrobat Reader V5.0 以降が必要です。以下の URL から無償の Adobe Acrobat Reader をダウンロードできます。

- <http://www.adobe.com/products/acrobat>

WinCC DVD の "InstData\PrintDocuments"ディレクトリにはオンラインヘルプ印刷用追加 PDF ファイルも保存されています。

## 通信ドライバ

以下の表に、このパッケージに添付されている通信ドライバを一覧表示します。

通信ドライバ	追加ライセンス
OPC	いいえ
Allen Bradley - Ethernet IP	いいえ
三菱製 Ethernet	いいえ
Modbus TCP/IP	いいえ
PROFIBUS DP	いいえ
PROFIBUS FMS	いいえ <sup>1)</sup>
SIMATIC 505 TCPIP	いいえ <sup>1)</sup>
SIMATIC S5 Ethernet 第 4 層	いいえ <sup>1)</sup>
SIMATIC S5 Profibus FDL	いいえ
SIMATIC S5 Programmers Port AS511	いいえ
SIMATIC S5 Serial 3964R	いいえ
SIMATIC S7 Protocol Suite	いいえ
SIMATIC S7-1200、S7-1500	いいえ <sup>2)</sup>
SIMATIC TI Ethernet 第 4 層	いいえ <sup>1)</sup>
SIMATIC TI Serial	いいえ
SIMOTION	いいえ

### 3.2 納入範囲

通信ドライバ	追加ライセンス
システム情報	いいえ
WinCC OPC UA サーバー	いいえ <sup>3)</sup>

- 1) ライセンスは基本ライセンス(RT/RC)に含まれています。
- 2) SIMATIC S7-1200、S7-1500 のライセンシングは接続数に基づきます。  
2 接続までは追加ライセンスが不要です。
- 3) WinCC OPC UA サーバーには接続性パックライセンスが必要です。

### 下記も参照

ライセンスとライセンス供与 (ページ 75)

WinCC インストールの前提条件 (ページ 81)

## 3.3 ライセンスとライセンス供与

### はじめに

WinCC ソフトウェアは保護されているため、有効なライセンスを所持している場合に限り無制限に使用できます。WinCC が制限なく動作するには、各インストール済みのソフトウェアおよび使用するオプションに、有効なライセンスが必要です。ライセンスのインストールに必要なライセンスキーすべてが記憶媒体に入っています。オプションパッケージ用のライセンスは別途注文する必要があります。

WinCC で使用するためにインストールされるライセンスは、記憶媒体からローカルドライブに転送され、記憶媒体では登録されません。アーカイブのライセンスのみ、ライセンスのコンポーネントサブジェクトごとの複数のライセンスの蓄積ができます。その他のライセンスを蓄積することはできません。

---

#### 注記

さらに、被許諾者は、ソフトウェア(SW)に、Microsoft 社またはその関連会社によってライセンス供与されたソフトウェアが含まれていることを確認します。それによって、被許諾者は、Microsoft SQL Server とエンドユーザーとの間の追加ライセンス供与条件によって制約を受け、同条件を履行することに同意するものとしします。

---

### ライセンス条件に関する注記

インストール中に表示される付属のライセンス条件を確認します。WinCC V7.2 には V7.2 ライセンスが必要です。

SIMATIC WinCC ソフトウェアは、不正使用に対してコピープロテクトされています。ライセンスおよびライセンスタイプの詳細については、WinCC 情報システムの「ライセンスリング」を参照してください。

WinCC が適切に動作するには、インストール済みのライセンスが必要になります。インストールする WinCC のライセンスがない場合、プログラムは起動時にデモモードに切り替わります。

---

#### 注記

有効なライセンスなしでプロセスモードの WinCC を実行することは禁じられています。

---

### 3.3 ライセンスとライセンス供与

#### デモモード

1つまたは複数のコンポーネント用のライセンスが欠落すると、WinCC はデモモードで動作します。また、プロジェクト内のプロセスタグまたはアーカイブタグが最大許可数を超えた場合も、WinCC はデモモードに切り替わります。

デモモードでは、最長 1 時間のみ WinCC ソフトウェアを無制限に使用できます。この時間を超えて WinCC を操作することはライセンス許可に違反します。1 時間が経過すると、WinCC エクスプローラとエディタが閉じます。ランタイムでは、システムが有効なライセンスの取得を要求します。このダイアログは 10 分毎に表示されます。

WinCC デモバージョンを完全バージョンにアップグレードできます。これを実行するには、次のようにします。

- 必要なライセンスをインストールします。
- WinCC DVD を使用して、SQL Standard Server をインストールします。

デモモードの詳細については、WinCC 情報システムの「ライセンシング」を参照してください。

#### WinCC V7.2 用の Microsoft SQL Server 2008 R2 SP1

Microsoft SQL Server データベースを使用するにはライセンスが必要です。このライセンスは、WinCC にライセンスが供与され、WinCC が適切にインストールされるときに、すぐに入手することができます。

WinCC と共にインストールされた SQL Server のライセンスは、WinCC と接続して使用する場合のみ有効です。外部アプリケーションや内部データベースで使用するには、追加のライセンスが必要です。

#### ライセンスのインストール

Automation License Manager は、ライセンスのインストールに使用できます。ライセンスは、WinCC のインストール中またはその後にインストールできます。Automation License Manager は、Windows スタートメニューの"Siemens Automation"プログラムグループにあります。後からライセンスをインストールしたときは、コンピュータの再起動時に有効になります。

ライセンスのインストールには、以下の必要条件を満たす必要があります。

- ライセンスの入っている記憶媒体は、書き込み保護しないでください。
- RC ライセンスをコンフィグレーション用のライセンスサーバーにインストールできます。ライセンスをローカルドライブにインストールする必要はありません。
- ライセンスをインストールできるのは非圧縮ドライブのみです。

---

**注記**

WinCC をアンインストールしても、ライセンスはシステムにインストールされたまま残ります。

---

**下記も参照**

アップグレードインストールの実行方法 (ページ 117)

アンインストールの方法 (ページ 114)

追加コンポーネントを後でインストールする方法 (ページ 110)

WinCC のインストール方法 (ページ 106)

## 3.4 ASIA ライセンスの有効化とテスト

### はじめに

WinCC Runtime および WinCC CS のライセンスキーは、同梱のライセンス記憶媒体に入っています。

ライセンス許諾された ASIA バージョンは、Unicode に切り替えることで、ヨーロッパバージョンと並行して実行可能です。供給されたハードウェアキー( dongle )が以下の条件を確認します。

- ユーザーインターフェース(GUI)のランタイム言語
- テキストライブラリの言語
- オペレーティングシステム

---

### 注記

有効なライセンスなしでプロセスモードの WinCC を実行することは禁じられています。

仮想環境での生産動作は、WinCC ASIA バージョンでは認められていません。

---

### ライセンスのインストール

Automation License Manager は、ライセンスのインストールに使用できます。ライセンスは、WinCC のインストール中またはその後にインストールできます。

Automation License Manager は、Windows スタートメニューの"Siemens Automation"プログラムグループにあります。

後からライセンスをインストールしたときは、コンピュータの再起動時に有効になります。

ライセンスのインストールには、以下の必要条件を満たす必要があります。

- ライセンスの入っている記憶媒体は、書き込み保護しないでください。
- RC ライセンスをコンフィグレーション用のライセンスサーバーにインストールできます。ライセンスをローカルドライブにインストールする必要はありません。
- ライセンスをインストールできるのは非圧縮ドライブのみです。

**注記**

WinCC をアンインストールしても、ライセンスはシステムにインストールされたまま残ります。

**ライセンスの正当性のテスト**

正しくライセンスが付与された WinCC バージョンを、ライセンス記憶媒体を接続しないで起動すると、以下のエラーメッセージが表示されます。



正しくライセンス付与された WinCC バージョンを装備したコンピュータからその記憶媒体を切り離すと、同じエラーメッセージが、数分後に表示されます。

**通知****ライセンス記憶媒体を取り外さないでください**

コンピュータからライセンスの記憶媒体を取り外すと、WinCC はデモモードに切り替わります。

記憶媒体をコンピュータに再接続すると、すぐ後に WinCC Runtime のデモモードが再び無効になります。 WinCC エクスプローラを再起動して、WinCC エディタのデモモードを無効にしてください。この操作の間、WinCC Runtime はアクティブなままです。

このエラーメッセージが表示されない場合は、ライセンスのない WinCC バージョンがインストールされています。

この場合、WinCC の使用に関する権利は利用できません。この WinCC バージョンを削除して、適正な、ライセンスが付与された WinCC V7 を入手してください。

### 3.4 ASIA ライセンスの有効化とテスト

WinCC サポートに連絡して、使用中のソフトウェアのバージョンのシリアル番号を伝えてください。

- <http://www.automation.siemens.com/partner/index.asp>



## 3.5 インストールの必要条件

### 3.5.1 WinCC インストールの前提条件

#### はじめに

WinCC をインストールするには、特別なハードウェアおよびソフトウェアが必要です。必要条件は、「インストールのハードウェア要件」および「インストールのソフトウェア要件」の章に記載されています。

---

#### 注記

**Windows オペレーティングシステム：** システムで変更しないでください。

デフォルトから外れた Windows 設定は、WinCC の動作に影響することがあります。

特に次の変更を行う場合は、この注記に従ってください。

- [コントロールパネル]のプロセスおよびサービスの変更。
  - Windows タスクマネージャの変更。
  - Windows レジストリの変更。
  - Windows セキュリティポリシーの変更。
- 

特定の条件を満たしているかどうかの最初の検査は、WinCC のインストール時にすでに行われています。以下の条件がチェックされます。

- オペレーティングシステム
- ユーザー権限
- グラフィック解像度
- Internet Explorer
- MS メッセージキュー
- SQL Server
- 強制完全リスタート(コールドリスタート)

## 3.5 インストールの必要条件

## エラーメッセージ

これらの条件に適合していなければ、WinCC のインストールは中止され、エラーメッセージが表示されます。表示されるエラーメッセージについての詳細は、次の表を参照してください。

エラーメッセージ	説明
インストールを正しく実行するには、コンピュータを再起動します。	コンピュータにインストールするソフトウェアが再起動を要求しています。WinCC をインストールする前に、一度再起動します。
必要なオペレーティングシステム Win XP	オペレーティングシステムを Windows XP SP3 へアップグレードします。
必要なオペレーティングシステム Windows 7	オペレーティングシステムを Windows 7 へアップグレードします。
必要なオペレーティングシステム Win 2003	オペレーティングシステムを Windows 2003 SP2 へアップグレードします。
必要なオペレーティングシステム Win 2008	オペレーティングシステムを Windows 2008 SP2 へアップグレードします。
このアプリケーションは VGA またはそれ以上の解像度を必要とします。	接続されているモニタの設定をチェックし、必要に応じてグラフィックカードをアップグレードします。
管理者権限がありません。管理者としてログオンします。	インストールを行うには、管理者権限が必要です。管理者権限を持つユーザーとして Windows に再ログインします。
unInstallShield が有効であることが検出されました。unInstallShield を閉じ、セットアップを再起動します。	unInstallShield を閉じます。 このメッセージは、このインストールに管理者権限を持たない場合も表示されます。この場合、管理者権限を持つユーザーとして Windows に再ログインします。
Microsoft メッセージキューサービスがインストールされていません。	Microsoft メッセージキューサービスをインストールします。これをインストールするには Windows のインストール CD が必要です。詳細については、「Microsoft メッセージキューのインストール」のセクションを参照してください。

## 下記も参照

オペレーティングシステムでアクセス許可を定義 (ページ 95)

ライセンスとライセンス供与 (ページ 75)

Windows セキュリティポリシーの適合方法 (ページ 101)

Microsoft メッセージキューのインストール方法 (ページ 104)

データとシステムのセキュリティに関する注 (ページ 93)

インストールのソフトウェア前提条件 (ページ 87)

インストールのハードウェア前提条件 (ページ 83)

## 3.5.2 インストールのハードウェア前提条件

### はじめに

インストールするには、特定のハードウェアコンフィグレーション条件を満たす必要があります。

### ハードウェア要件

WinCC はすべての一般的な IBM/AT 互換 PC プラットフォームをサポートします。

WinCC が効率的に動作するために、使用するシステムの推奨仕様は以下のとおりです。

---

#### 注記

サーバーの必要条件は、他に指定がない限り、単一ユーザーシステムに対しても有効です。

---

## 3.5 インストールの必要条件

		最小値	推奨値
CPU	Windows XP	クライアント: Intel Pentium III、 800 MHz  単一ユーザーシステム: Intel Pentium III、1 GHz	クライアント: Intel Pentium 4、2 GHz  単一ユーザーシステム: Intel Pentium 4、2.5 GHz
	Windows 7	クライアント: Intel Pentium 4、2.5 GHz  単一ユーザーシステム: Intel Pentium 4、2.5 GHz	クライアント: Intel Pentium 4、3 GHz / Dual Core  単一ユーザーシステム: Intel Pentium 4、3.5 GHz / Dual Core
	Windows Server 2003	単一ユーザーシステム: Intel Pentium III、1GHz  サーバー: Intel Pentium III;1GHz  中央アーカイブサーバー: Intel Pentium 4、 2.5 GHz	単一ユーザーシステム: Intel Pentium 4、3 GHz  サーバー: Intel Pentium 4、3 GHz  中央アーカイブサーバー: Intel Pentium 4、3 GHz / Dual Core
	Windows Server 2008	単一ユーザーシステム: Dual Core CPU、2 GHz  サーバー: Dual Core CPU、2 GHz  中央アーカイブサーバー: Dual Core CPU、2 GHz	単一ユーザーシステム: Multi Core CPU、2.4 GHz  サーバー: Multi Core CPU、 2.4 GHz  中央アーカイブサーバー: Multi Core CPU、2.4 GHz
RAM	Windows XP	クライアント: 512 MB  単一ユーザーシステム: 1 GB	クライアント: ≥ 1 GB  単一ユーザーシステム: 2 GB
	Windows 7	クライアント: 1 GB  単一ユーザーシステム: 2 GB	クライアント: 2 GB  単一ユーザーシステム: 2 GB

		最小値	推奨値
	Windows Server 2003	単一ユーザーシステム: 1 GB サーバー: 1 GB 中央アーカイブサーバー: 2 GB	単一ユーザーシステム: 2 GB サーバー: 2 GB 中央アーカイブサーバー: > 2 GB
	Windows Server 2008	単一ユーザーシステム: 2 GB サーバー: 2 GB 中央アーカイブサーバー: > 2 GB	単一ユーザーシステム: 4 GB サーバー: 4 GB 中央アーカイブサーバー: > 4 GB
ハードディスクの空きメモリ - WinCC のインストール <sup>1)</sup> - WinCC での作業 <sup>2)3)</sup>		クライアント: 1.5 GB /サーバー: > 1.5 GB クライアント: 1.5 GB /サーバー: 2 GB/中央アーカイブサーバー: 40 GB	クライアント: > 1.5 GB /サーバー: 2 GB クライアント: > 1.5 GB /サーバー: 10 GB/中央アーカイブ サーバー: 各ハードディスク で 2x80 GB
仮想メモリ <sup>4)</sup>		1.5 x RAM	1.5 x RAM
Windows プリンタスプーラー用 RAM <sup>5)</sup>		100 MB	> 100 MB
グラフィックカード		16 MB	32 MB
色の深度/色の質		256	最高(32 ビット)
分解能		800 * 600	1024 * 768

<sup>1)</sup>インストールには、オペレーティングシステムをインストールするドライブ上に、最低 100MB の追加のシステムファイル用空きメモリスペースが必要になります。オペレーティングシステムは、通常、ドライブ"C:"にインストールされています。

<sup>2)</sup>アーカイブやパッケージのサイズのみでなくプロジェクトのサイズにも依存します。プロジェクトの実行時に、最低 100MB の空きメモリスペースが必要です。

<sup>3)</sup>WinCC プロジェクトは圧縮ドライブまたはディレクトリに保存しないでください。

### 3.5 インストールの必要条件

4) [選択したドライブのページングファイルサイズ]には、[すべてのドライブの総ページングファイルサイズ]の欄にある推奨値を使用します。[最大サイズ]フィールドのみでなく、[初期サイズ]フィールドにも推奨値を入力します。

5) WinCC は Windows プリントスプーラを使ってプリンタの障害を検出します。したがって、他のプリントスプーラをインストールする必要はありません。

---

#### 注記

オンラインコンフィグレーションの場合は、推奨する必要条件は最低限の必要条件として有効です。

---

## 仮想化

以下の仮想化システムをテスト済みです。

- Microsoft Hyper-V
- VM Ware ESXi 5.0

#### 必要条件

仮想コンピュータのパフォーマンスデータは、WinCC クライアントの最小必要条件を満たす必要があります。

V7.0 SP2 以降の WinCC を使用した仮想環境についての詳細は、以下の URL にアクセスしてください。

- インターネット: 仮想化についての FAQ (<http://support.automation.siemens.com/WWW/view/en/49370459>)

## 下記も参照

オペレーティングシステムでアクセス許可を定義 (ページ 95)

ソフトウェアの実行に関する注意 (ページ 119)

データとシステムのセキュリティに関する注 (ページ 93)

インストールのソフトウェア前提条件 (ページ 87)

納入範囲 (ページ 72)

### 3.5.3 インストールのソフトウェア前提条件

#### はじめに

インストールには、オペレーティングシステムおよびソフトウェアコンフィギュレーションに関する一定の必要条件を満たす必要があります。

---

#### 注記

WinCC は、ドメインまたはワークグループでの運用に対して使用できます。

ただし、ドメイングループポリシーおよびドメインの制限によって、インストールできない場合があることに注意してください。こういった場合は、**Microsoft** メッセージキュー、**Microsoft SQL Server** および **WinCC** をインストールする前に、ドメインからコンピュータを削除します。このコンピュータに、ローカルに管理者権限でログオンします。インストールを実行します。インストールが成功した後、**WinCC** コンピュータを再度ドメインに登録することができます。ドメインのグループポリシーおよびドメインの制限がインストールを妨げない場合は、コンピュータをインストール中にドメインから削除しないようにします。

ただし、ドメイングループポリシーおよびドメインの制限によって、運用できない場合があることにも注意してください。こういった制限に対処することができない場合は、ワークグループの **WinCC** コンピュータを操作します。必要に応じて、ドメイン管理者に連絡してください。

---

#### オペレーティングシステム

##### オペレーティングシステムの言語

以下のオペレーティングシステム言語にのみ対応する **WinCC** がリリースされています。

- ドイツ語
- 英語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- 中国語(簡体字、中国)
- 中国語(繁体字、台湾)

3.5 インストールの必要条件

- 日本語
- 韓国語
- 多言語オペレーティングシステム(MUI バージョン)

コンフィグレーション

複数のサーバーを使用する場合、すべてのサーバーを同じオペレーティングシステムを使用して操作する必要があります： Windows Server 2003 または 2008(それぞれ同じ Standard または Enterprise Edition)。

単一ユーザーのシステムおよびクライアント

WinCC は、Windows XP Professional および Windows 7 上で動作します。

オペレーティングシステム	コンフィグレーション	コメント
Windows XP	Professional Service Pack 3	32 ビット MUI バージョンを含む 納品済み SIMATIC NET バージョンのソフトウェア要件に留意してください。
Windows 7	Professional Service Pack 1 Enterprise Service Pack 1 Ultimate Service Pack 1	標準インストール 32 ビットと 64 ビット MUI バージョンを含む

Windows Server 2003/2008 で、単一ユーザーのシステムおよび WinCC マルチユーザーシステムのクライアントも実行できます。独自のプロジェクトがないクライアントは、Windows Server 2003 を搭載したコンピュータで操作できません。

WinCC サーバー

WinCC サーバーは、Windows Server 2003/2008 Standard/Enterprise Edition または Windows Server 2003/2008 R2 で動作します。

最大 3 台の WinCC クライアントを持つ WinCC サーバー

実行するクライアントが 3 つ以下の場合、WinCC Runtime サーバーを次のオペレーティングシステムで操作することも可能です。

- Windows XP
- Windows 7

このコンフィグレーションでは、WinCC サービスモードはリリースされていません。



オペレーティングシステム	コンフィグレーション	コメント
Windows Server 2003	Standard Service Pack 2 Enterprise Service Pack 2	32 ビット MUI バージョンを含む
Windows Server 2003 R2	Standard Service Pack 2	32 ビット MUI バージョンを含む
Windows Server 2008	Standard Service Pack 2	32 ビット
Windows Server 2008 R2	Standard Service Pack 1	64 ビット MUI バージョンを含む
Windows XP	Professional Service Pack 3	32 ビット(MUI バージョンを含む) 最大 3 クライアント。 冗長性なしの場合のみ、WinCC Runtime での使用が承認されています。 WinCC ServiceMode はリリースされていません。

#### 注記

WinCC は、Microsoft ターミナルサーバーでの使用には適していません。Microsoft ターミナルサーバーを使用できるのは、WinCC の Web クライアントと接続しているときのみです。WinCC/WebNavigator のインストールの指示に留意してください。

#### Windows Server 2003 の設定

クライアントとサーバーの接続を確立する際に問題が発生したら、サーバー側のクライアントライセンスモード設定を検査します。ネットワーク上にサーバが 1 台しかない場合、[サーバー単位]設定を選択する必要があります。[同時接続数]は、クライアント数と同じにする必要があります。ネットワーク上に複数のサーバーがある場合、[ワークステーション単位]設定を選択する必要があります。ライセンスの詳細については、オペレーティングシステムの文書を参照してください。

#### Microsoft メッセージキューサービス

WinCC では、Microsoft メッセージキューサービスが必要です。詳細情報は、「Microsoft メッセージキューのインストール」のセクションを参照してください。

### 3.5 インストールの必要条件

#### Microsoft SQL Server 2008

WinCC には Microsoft SQL Server 2008 R2 Service Pack 1 の 32 ビットバージョンが必要です。SQL Server は、WinCC のインストール中に、自動的にインストールされます。必要な接続性を持つコンポーネントが Microsoft SQL Server と共にインストールされます。

SQL Server のデータにアクセスするには、対応するユーザー権限が必要です。「オペレーティングシステムでのアクセス権の定義」のセクションにある注記をよくお読みください。

#### SQL Server インスタンス"WinCC"

インストール中に、必要な設定を持つ Microsoft SQL Server の"WinCC" SQL Server インスタンスが、新規に作成されます。

このインスタンスは常に英語でインストールされます。既存の SQL Server インスタンスをインストールした言語はこれに影響しません。Service Pack が既存のインスタンスに影響を及ぼすことはありません。

#### WinCC 削除後の"WinCC"インスタンス

WinCC を削除しても、"WinCC" SQL Server インスタンスは削除されません。ライセンスの理由から、手動で削除します。

#### Windows のコンピュータ名を変更しないでください

WinCC のインストール後は、Windows のコンピュータ名を変更しないでください。

Windows のコンピュータ名を変更すると、SQL Server の削除と再インストールが必要になります。

#### Windows 7/Windows Server 2008 でのインストール

.Net Framework は Windows 7/Windows 2008 の 32 ビット版および 64 ビット版で提供されます。ただし、Framework はデフォルトではインストールされていません。この理由のため、WinCC のインストール前に .Net Framework がインストールされていることを確認してください。Windows のファンクションを用いて .Net Framework をインストールします。

#### 複数のネットワークアダプタを使った操作

サーバーで複数のネットワークアダプタを使用している場合は、WinCC 情報システムの「設定 > 分散システム > 複数のネットワークアダプタを備えたサーバーを使用した通信の特殊機能」の注記をお読みください。

## プロセス通信ドライバ

SIMATIC NET ドライバを使用するには、WinCC のインストール時に「SIMATIC NET PC Software」プログラムを選択します。

## Internet Explorer - 必要条件

WinCC では以下のバージョンがリリースされています。

- Microsoft Internet Explorer V8.0 (32 ビット)
- Microsoft Internet Explorer V9.0 (32 ビット)

WinCC の HTML ヘルプをフルに使用するには、Internet Explorer の[インターネットオプション]で JavaScript を使用できるようにする必要があります。

---

### 注記

Windows 7 および Windows Server 2008 で、Internet Explorer を無効にしないでください。

---

## セキュリティポリシーの適用

オペレーティングシステムで、署名のないドライバとファイルのインストールを許可する必要があります。詳細については、「Windows セキュリティポリシーの適用」のセクションを参照してください。

---

### 注記

WinCC が起動している場合はオペレーティングシステムの更新が禁じられています。オペレーティングシステムの更新後にコンピュータを再起動します。

---

## 「パス」環境変数の確認

WinCC を起動する前に、「パス」環境変数のエントリを確認する必要があります。

プログラムによっては、環境変数に引用符を含むパスが挿入されます。こうしたパスが設定された場合、WinCC が起動しなかったり、機能を制限されることがあります。パスに引用符が含まれることで、他メーカーのソフトウェアの動作が影響を受けることもあります。

コントロールパネルで[システムプロパティ]ダイアログを開きます。[拡張]タブの[環境変数]ボタンを使用して[環境変数]ダイアログを開き、「パス」システムタグの値を表示します。

### 3.5 インストールの必要条件

「パス」システムタグに引用符付きのパスが含まれている場合、これらのパスが最後に呼び出されるように、エントリの順序を変更します。

#### Windows 7 および Windows Server 2008: Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)

WinCC の OPC-XML-DA サーバーを使用している場合、インストール前に Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)をインストールしてください。

Windows Server 2008 で、関連する役割サービスの役割「Webserver (IIS)」を使用して、Server Manager の設定を構成します。

Windows 7 および Windows Server 2008 で、以下の設定を有効にします。

- Web 管理ツール:
  - IIS 管理サービス
  - IIS 管理コンソール
  - IIS 管理スクリプトとツール
  - IIS Metabasis との互換性と IIS 6 システムコンフィグレーション
  - IIS6 用 WMI の互換性
- [WWW サービス] > [一般的 HTTP]の機能:
  - 標準マニュアル
  - 静的コンテンツ
- [WWW サービス] > [アプリケーション開発]の機能:
  - .NET 拡張性
  - ASP
  - ASP.NET
  - ISAPI 拡張子
  - ISAPI フィルタ
- [WWW サービス] > [セキュリティ]:
  - 必要条件のフィルタリング
  - 標準認証
  - Windows の認証

---

**注記**

**Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)を常に ASP.NET および ASP と共にインストールする**

Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)をインストールする際には、常に ASP.NET と ASP をインストールします。

---

**下記も参照**

<http://support.microsoft.com/kb/917607> (<http://support.microsoft.com/kb/917607>)

**3.5.4 データとシステムのセキュリティに関する注****はじめに**

WinCC を使用する場合に、簡単な方法によりシステムのセキュリティを高めることができます。

**実行中のオペレーティングシステムレイヤへのアクセスを禁止**

実行中の WinCC プロジェクトでウィンドウ選択のダイアログが開いている場合は、この機能を使って Windows のオペレーティングシステムにアクセスすることができます。たとえば、データをインポートしたりファイルを選択したりすると、ウィンドウ選択のダイアログが開きます。

ユーザー管理者経由で許可チェックを実行すれば、対応する機能がプロテクトされ、オペレーティングシステムに未許可でアクセスされるのを防ぐことができます。

**Windows ツールバーへのアクセスを阻止する**

コンピュータのプロパティを使用し、ランタイム中に Windows のタスクバーが表示されないようにすることができます。[コンピュータのプロパティ]ダイアログの[パラメータ]タブを開き、[キーの無効化]領域のすべてのショートカットキーを無効にします。

さらに、Windows の[タスクバーをほかのウィンドウの手前に表示する]設定を有効にします。

### 3.5 インストールの必要条件

#### ショートカットキーの無効化

<Ctrl+Esc>ショートカットキーを無効にする場合、ランタイム中、以下のショートカットキーも無効になります。

ショートカットキー	機能
<Windows キー+U>	システムユーティリティプログラムマネージャ
<Shift>キーを 5 回押す	機能のロック
<右 Shift>キーを 8 秒間押す	打鍵の遅延
<Alt left+Shift left+Num>	キーボードマウス
<Alt left+Shift left+Print>	ハイコントラスト

#### 注記

上記の機能は[Windows コントロールパネル]を使用して設定することができます。この機能を WinCC Runtime を有効にする前に[Windows コントロールパネル]で有効にすると、ランタイム中ロックされません。

#### Windows 7 / Windows Server 2008 : ショートカットキーの無効化

Windows 7 または Windows Server 2008 のショートカットキーを無効にする場合、オペレーティングシステム管理のグループポリシーを調整する必要があります。

詳細については、SIMATIC カスタマオンラインサポートのエントリ ID 「44027453」の FAQ を参照してください。

- インターネット: WinCC FAQ 44027453 (<http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/44027453>)

## 下記も参照

ソフトウェアの実行に関する注意 (ページ 119)

Windows セキュリティポリシーの適合方法 (ページ 101)

オペレーティングシステムでアクセス許可を定義 (ページ 95)

WinCC のインストール方法 (ページ 106)

WinCC インストールの前提条件 (ページ 81)

インターネット: WinCC FAQ (<http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/10805583/133000>)

インターネット: WinCC FAQ 44027453 (<http://support.automation.siemens.com/WW/view/en/44027453>)

## 3.5.5 オペレーティングシステムのアクセス権

### 3.5.5.1 オペレーティングシステムでアクセス許可を定義

#### はじめに

システム保護をサポートするため、WinCC は構造化されたユーザー管理を提供します。

- システムを未許可のアクセスから保護します。
- 必要な権限を各ユーザーに割り付けます。

WinCC で作業するために、特定のフォルダにネットワーク経由でのアクセスを有効にできます。セキュリティ上の理由から、認証されたユーザーだけにこれらのフォルダに対するアクセス権を割り付ける必要があります。Windows 標準ユーザーグループや、WinCC で作成したユーザーグループ経由でアクセス権を管理します。

## WinCC で指定されるアクセス権

WinCC インストール後、WinCC は、Windows ユーザーとグループの管理に、以下のローカルグループを自動的に確立します。

- "SIMATIC HMI"  
すべてのユーザーは"SIMATIC HMI"ユーザーグループのメンバである必要があります。このメンバは、ローカルプロジェクトを作成し、このローカルプロジェクトをリモートで処理、開始、アクセスすることができます。WinCC データベースへのアクセスは、必要な最小権限(読み取り/書き込み)に限定されます。デフォルトでは、WinCC のインストールを実行するユーザー、およびローカル管理者は、このグループのメンバです。追加のメンバは、管理者が手動で追加する必要があります。
- "SIMATIC HMI Viewer"  
このメンバには、WinCC データベースの コンフィグレーションデータおよびランタイムデータへの読み取りアクセス権限のみがあります。このグループは主に、WinCC WebNavigator を操作するための Web 公開サービス、たとえば IIS (インターネットインフォメーションサービス)アカウント用のアカウントに使用します。
- "<インストールディレクトリ>/WinCC/aplib"フォルダにアクセスします  
インストール後、"SCRIPTFACT"という名前の"インストレーションディレクトリ/WinCC/aplib"ディレクトリで"SIMATIC HMI"ユーザーグループに対するロックが解除されます。このディレクトリには、プロジェクトスクリプト機能用の中央ライブラリが含まれます。

## ユーザーグループとユーザー権限

以下の概要で、アクセス権のある異なるユーザーグループのタスクと、これらのアクセス権を割り付けるために必要な指示が示されます。

## WinCC インストール

- タスク: WinCC インストール
- 役割: コンフィグレーションエンジニア、管理者
- オーソリゼーション: Windows 管理者権限
- 手順:  
インストール前に、コンピュータに対するローカル管理者権限があることを確認します。
- 説明:  
WinCC のインストールにはローカル管理者権限が必要です。



## 操作準備

- タスク: WinCC へのアクセス
- 役割: コンフィグレーションエンジニア、管理者
- オーソリゼーション: パワーユーザー権限、管理者権限
- 手順:  
インストール後、管理者またはパワーユーザーとして管理設定を行います。
- 説明:  
パワーユーザー権限は、ファイル権限のオーソリゼーションやプリンタドライバ設定といった管理設定に対する最低要件になります。  
WinCC プロジェクトを完全に削除するには、少なくともパワーユーザー権限が必要です。

## WinCC 操作時のローカルユーザー権限

- タスク: ランタイムのオペレータ入力、コンフィグレーション
- 役割: WinCC ユーザー(オペレータ、コンフィグレーションエンジニア)
- オーソリゼーション:
  - Windows グループ"ユーザー"
  - ユーザーグループ"SIMATIC HMI"
- 手順:  
"SIMATIC HMI"ユーザーグループにユーザーを追加します。少なくとも Windows"ユーザー"ユーザーグループにユーザーを追加します。
- 説明:  
WinCC を操作するため、あるいはクライアントおよびサーバーで WinCC プロジェクトにリモートアクセスするためには、ユーザーは"SIMATIC HMI"ユーザーグループのメンバである必要があります。

## 分散システムに対するアクセス

- タスク: 分散システムに対するアクセス
- 役割: WinCC ユーザー(オペレータ、コンフィグレーションエンジニア)
- オーソリゼーション: すべてのコンピュータに対するユーザーグループを均一化します。

### 3.5 インストールの必要条件

- 手順:  
同一グループ内のすべてのコンピュータに WinCC ユーザーを入力します。  
すべてのユーザーに同一パスワードを割り付けます。
- 説明:  
分散システムへのアクセスでは、クライアントサーバーに同一ユーザーグループを作成する必要があります。

#### ローカルプロジェクトに対するアクセス権

- タスク: 以下のように作成したプロジェクトに対するアクセス:
  - 手動コピー
  - 複製
  - 検索
  - 移行
- 役割: WinCC ユーザー(オペレータ、 コンフィグレーションエンジニア)
- オーソリゼーション: SIMATIC HMI, SIMATIC HMI Viewer
- 手順:  
"SIMATIC HMI"グループのプロジェクトフォルダにフルアクセス権を割り付けます。  
そのためには、管理者またはパワーユーザーとして作成後にプロジェクトを 1 度開きます。 または、Windows Computer Management でアクセス権を指定できます。  
Project Duplicator を使ってプロジェクトをコピーするする場合も、適切な権限が必要になります。 使用されたフォルダに対するアクセスを認めるか、メインユーザーとしてフォルダを複製する必要があります。
- 説明:  
ローカルプロジェクトが新たに作成されると、ユーザーグループ"SIMATIC HMI"および"SIMATIC HMI Viewer"のメンバはプロジェクトディレクトリに対する必要なアクセス権を自動的に受け取ります。  
ただし、プロジェクトがコピー、ログイン、あるいは移行される場合、ローカルオーソリゼーションは転送されないため、再度割り付ける必要があります。

#### システム情報へのアクセス権

- タスク: WinCC チャンネル"システム情報"を使用したシステム情報へのアクセス
- 役割: オペレータ
- オーソリゼーション: システムモニタユーザー

- 手順:  
Windows グループ"システムモニタユーザー"に、WinCC チャンネル"システム情報"の以下のシステム情報を必要とするすべてのユーザーを受け入れます。
  - CPU 負荷
  - エクスポートファイルのステータス
- 説明:  
Windows の標準的なユーザー権限を有するユーザーには、特定のシステム情報へのアクセス権限はありません。

#### 下記も参照

データとシステムのセキュリティに関する注 (ページ 93)

ソフトウェアの実行に関する注意 (ページ 119)

Windows セキュリティポリシーの適合方法 (ページ 101)

WinCC のインストール方法 (ページ 106)

WinCC インストールの前提条件 (ページ 81)

#### 3.5.5.2 "SIMATIC HMI"ユーザーグループにユーザーを含める

##### はじめに

WinCC にアクセスが許可されるログインのローカルユーザーを、"SIMATIC HMI"グループに含めます。そうするには、最初にローカルユーザーを作成する必要があります。ドメインのユーザーを、ユーザーグループ"SIMATIC HMI"に直接含めることもできます。

##### 手順

1. Windows のワークステーション管理を開きます。
2. "Local Users and Groups > Users"をナビゲーションウィンドウで選択します。  
すべてのローカルユーザーがデータウィンドウに表示されます。
3. ショートカットメニューから[新規ユーザー]ダイアログを開きます。  
WinCC へのアクセス権限のある各ユーザーと同じログインのユーザーアカウントを作成します。

### 3.5 インストールの必要条件

4. "Local Users and Groups > Groups"をナビゲーションウィンドウで選択します。  
すべてのグループがデータウィンドウに表示されます。  
"SIMATIC HMI"グループを選択します。
5. ポップアップメニューを使用し、[メンバーの追加]ダイアログを開き、上記のユーザーを  
"SIMATIC HMI"ユーザーグループのメンバーとして含めます。

#### 3.5.5.3 "SIMATIC HMI"ユーザーグループに、ドメインのグローバルユーザーグループを含める

##### はじめに

ドメインの操作中に、追加のドメインのグローバルユーザーグループを作成し、"SIMATIC HMI"ユーザーグループのメンバーとして含めることもできます。

##### 必要条件

- ドメイン管理者が、ドメインのグローバルユーザーグループを作成します。
- ドメイン内で、ドメイン管理者が、ログインすると WinCC へのアクセスが許可されるドメインのユーザーを含めます。

##### 手順

1. Windows のワークステーション管理を開きます。
2. ナビゲーションウィンドウで、[ローカルユーザーとグループ|グループ]エントリを選択します。データウィンドウに、グループがすべて表示されます。グループ"SIMATIC HMI"を選択します。
3. ポップアップメニューを使用し、[メンバーの追加]ダイアログを開き、ドメイングローバルユーザーグループを"SIMATIC HMI"ユーザーグループのメンバーとして含めます。

#### 3.5.5.4 "SIMATIC HMI"ユーザーグループの既存のプロジェクトをリリースします。

##### はじめに

ユーザーグループ"SIMATIC HMI"に既存のユーザーグループへのアクセス権がある場合は、最初にプロジェクトの既存のリリースを削除する必要があります。WinCC Explorerを開いたときに、プロジェクトは再度リリースされます。

## 手順

1. Windows のワークステーション管理を開きます。
2. ナビゲーションウィンドウで、エントリ[共有フォルダ]共有]を選択します。データウィンドウに、ロックされていないディレクトリがすべて表示されます。
3. それぞれのプロジェクトディレクトリを選択し、[共有のキャンセル]ポップアップメニューによって有効を削除します。
4. ここで、WinCC にこのプロジェクトを開くと、"SIMATIC HMI"ユーザーグループに対して自動的にプロジェクトディレクトリのロックが解除され、そのディレクトリへのアクセスがユーザーグループのすべてのメンバに許可されます。

---

### 注記

WinCC でロックされていないディレクトリの有効な名前の変更する必要はありません。

---

## 3.5.6 Windows セキュリティポリシーの適合方法

### はじめに

WinCC をインストールする前に、以下のオペレーティングシステム設定を検査します。

- システムで、署名のないドライバとファイルのインストールを許可する必要があります。
- Windows 7/Server 2008/Server 2008 R2 の場合、Windows ファンクション [ユーザーの簡易切り替え] の使用は、WinCC では許可されていません。

### Windows XP/Windows Server 2003 の場合の手順

1. [コントロールパネル]から[管理ツール]を開きます。
2. [ローカルセキュリティポリシー]をダブルクリックします。
3. 左側のウィンドウ枠で、[ローカルポリシー]をクリックします。
4. 右側のウィンドウ枠で、[セキュリティオプション]をダブルクリックします。
5. 以下のセキュリティポリシーの設定を確認します。
  - [デバイス: 署名されていないドライバのインストール時の動作]  
ポリシーは、[警告なしで許可する]または[警告するがインストールは許可する]を選択します。

### 3.5 インストールの必要条件

#### Windows 7/Windows Server 2008 の場合の手順

1. Windows の[スタート]メニューで[プログラム] > [アクセサリ] > [実行]を選択します。
2. 入力ボックスに"gpedit.msc"と入力します。  
[ローカルグループポリシーエディタ]ダイアログボックスが開きます。
3. [ローカルコンピュータのポリシー]のウィンドウの左のセクションで、[コンピュータの設定] > [管理テンプレート] > [システム] > [デバイスのインストール] > [デバイスのインストール制限]を選択します。
4. 以下のセキュリティポリシーの設定を確認します。
  - [ポリシーによってインストールが阻止された場合にカスタムメッセージを表示する(バルーンテキスト)]
  - [ポリシーによってインストールが阻止された場合にカスタムメッセージを表示する(バルーンタイトル)][未設定]が、ポリシーに設定されている必要があります。
5. [ローカルコンピュータのポリシー]のウィンドウの左のセクションで、[コンピュータの設定] > [管理テンプレート] > [システム] > [ログイン]を選択します。
6. [ユーザーの簡易切り替えの入力点を非表示]オプションを有効にします。  
ログオフ後、[ユーザーの簡易切り替え]ファンクションは、Windows のスタートメニューでは無効になります。

#### 下記も参照

データとシステムのセキュリティに関する注 (ページ 93)

オペレーティングシステムでアクセス許可を定義 (ページ 95)

インストールのソフトウェア前提条件 (ページ 87)

WinCC インストールの前提条件 (ページ 81)

## 3.6 WinCC のインストール

### 3.6.1 WinCC のインストール

#### はじめに

このセクションでは WinCC のインストールについて説明します。

WinCC をインストールする前に MS メッセージキューをインストールします。

#### WinCC ファイルサーバーのインストール

プロジェクトデータのアーカイブ専用として使用する WinCC サーバーを設定する場合には、インストールが必要なのは WinCC ファイルサーバーのみです。WinCC 情報システムでより多くの情報が「コンフィグレーション > ファイルサーバー」のセクションに記述されています。

---

#### 注記

##### 管理者権限でのみ使用

ファイルサーバーを使用する場合は、管理者権限が必要です。

##### ファイルサーバーのインストール必要条件

WinCC V7 と WinCC ファイルサーバー V7 を、1 台のコンピュータに同時にインストールすることはできません。

---

#### WinCC オプションのインストール

WinCC DVD には次のオプションがあります。

- WinCC/Connectivity Pack
- WinCC/DataMonitor
- WinCC/WebNavigator
- WinCC/Information Server

これらのオプションには独自のライセンスが必要です。

後日 WinCC オプションを購入する場合は、必要なライセンスが記述されているライセンスデータキャリアを受け取ります。インストール DVD は供給されません。

インストール用 WinCC DVD を使用します。

### 3.6 WinCC のインストール

#### 下記も参照

WinCC のアップグレード (ページ 116)

追加コンポーネントを後でインストールする方法 (ページ 110)

WinCC のインストール方法 (ページ 106)

Microsoft メッセージキューのインストール方法 (ページ 104)

インストールのハードウェア前提条件 (ページ 83)

## 3.6.2 Microsoft メッセージキューのインストール方法

### はじめに

WinCC は、Microsoft のメッセージキューサービスを実行します。これはオペレーティングシステムのコンポーネント部分です。ただし、MS メッセージキューは、標準の Windows インストールに含まれていないため、必要に応じて別途インストールする必要があります。

インストールを完了するには、Windows のインストール CD が必要です。

---

#### 注記

WinCC は、ドメインまたはワークグループでの運用に対して使用できます。

ただし、ドメイングループポリシーおよびドメインの制限によって、インストールできない場合があることに注意してください。この場合は、Microsoft メッセージキュー、Microsoft SQL Server 2008 および WinCC をインストールする前に、ドメインからコンピュータを削除します。このコンピュータに、ローカルに管理者権限でログオンします。インストールを実行します。インストールが成功した後、WinCC コンピュータを再度ドメインに登録することができます。ドメインのグループポリシーおよびドメインの制限がインストールを妨げない場合は、コンピュータをインストール中にドメインから削除しないようにします。

ただし、ドメイングループポリシーおよびドメインの制限によって、運用できない場合があることにも注意してください。こういった制限に対処することができない場合は、ワークグループの WinCC コンピュータを操作します。

必要に応じて、ドメイン管理者に連絡してください。

---



### Windows XP での手順

1. オペレーティングシステムの[スタート]メニューから、[設定] > [コントロールパネル] > [プログラムの追加と削除]を開きます。
2. 左側のメニューバーで、[Windows コンポーネントの追加と削除]ボタンをクリックします。[Windows コンポーネントウィザード]が開きます。
3. [メッセージキュー]コンポーネントを選択します。[詳細]ボタンが有効になります。
4. [詳細]をクリックします。[メッセージキュー]ダイアログが開きます。
5. サブコンポーネントの[共通]を有効にし、
6. 他のサブコンポーネントはすべて無効にして、[OK]で確認します。
7. [ディスクの挿入]ダイアログが開いたら、要求された Windows のインストール CD-ROM を挿入します。[OK]ボタンをクリックします。MS メッセージキューがインストールされます。
8. [完了]ボタンでウィザードを閉じます。

### Windows 7 での手順

1. オペレーティングシステムの[スタート]メニューから、[コントロールパネル]>[プログラムの追加と削除]を選択します。
2. 左側のメニューバーで、[機能の有効化または無効化]ボタンをクリックします。[Windows 機能]ダイアログが開きます。
3. [Microsoft メッセージキュー(MSMQ)サーバー]コンポーネントを選択します。
4. [Microsoft メッセージキュー(MSMQ)サーバーコア]コンポーネントを有効化します。
5. 従属コンポーネントを無効化します。
6. [OK]ボタンで確認します。

### Windows Server 2003 での手順

1. オペレーティングシステムの[スタート]メニューから、[設定] > [コントロールパネル] > [プログラムの追加と削除]を開きます。
2. 左側のメニューバーで、[Windows コンポーネントの追加と削除]ボタンをクリックします。[Windows コンポーネントウィザード]が開きます。
3. [アプリケーションサーバー]コンポーネントを選択し、[次へ]をクリックします。[アプリケーションサーバー]ダイアログボックスが開きます。
4. [メッセージキュー]コンポーネントを選択します。[詳細]ボタンが有効になります。
5. [詳細]をクリックします。[メッセージキュー]ダイアログが開きます。
6. [共有コンポーネント]サブコンポーネントを有効にします。
7. 他のサブコンポーネントはすべて無効にして、[OK]で確認します。

### 3.6 WinCC のインストール

8. [ディスクの挿入]ダイアログが開いたら、要求された Windows のインストール CD-ROM を挿入します。[OK]ボタンをクリックします。MS メッセージキューがインストールされます。
9. [完了]ボタンでウィザードを閉じます。

#### Windows Server 2008 での手順

1. Server Manager を起動します。
2. [メッセージキュー]機能を追加します。
3. [メッセージキュー]オプションを有効化し、その下にある[メッセージキューサービス]および[メッセージキューサーバー]オプションも有効化します。

#### 下記も参照

WinCC のインストール方法 (ページ 106)




WinCC インストールの前提条件 (ページ 81)

### 3.6.3 WinCC のインストール方法

#### はじめに

このセクションでは、WinCC のインストール方法と実行方法について説明します。

既にインストールされているコンポーネントが、セットアップ中に表示されます。以下のシンボルを使用します。

シンボル	意味
	現在のプログラムバージョンがインストールされています。
	プログラムが更新されています。
	プログラムのセットアップ条件が満たされていません。詳細については、シンボルをクリックしてください。
<input type="checkbox"/>	プログラムを選択できます。
<input checked="" type="checkbox"/>	インストール用に選択されたプログラム。

シンボル	意味
<input type="checkbox"/>	プログラムが選択できません(他のプログラムに依存するため)。
<input checked="" type="checkbox"/>	インストール用に選択されたプログラム(選択解除できません)。

## インストールの範囲

WinCC のインストール時に次のオプションを選択できます。

- 最小(WinCC Runtime、WinCC CS、基本プロセスコントロール、OPC サーバー、SQL サーバー)
- 標準(SmartTool を含む)
- 完全(WinCC ConfigurationTool、WinCC Archive Tool を含む)
- エキスパートモード(ユーザー定義のセットアップで、特定のコンポーネントを有効、無効にできます)
- クライアント(クライアント用インストール、SQL-Express を使用)
- ファイルサーバー(WinCC Fileserver および SQL Server)

後でコンポーネントや言語をインストールまたは削除することもできます。詳細については、「追加インストールの実行方法」および「言語の追加インストールの実行方法」のセクションを参照してください。

必要なディスク容量はインストールしたコンポーネントによって異なります。見積り値がステータスバーに表示されます。

### WinCC オプションのインストール

WinCC 自体のインストール中に、必要なオプションをインストールできます。

オプションに関する資料の中には、関連するオプションパッケージをインストールした場合のみ使用できるものもあります。

### WinCC V6 または V7.0 プロジェクトを開く際の自動移行

WinCC V7.2 以前で作成されたプロジェクトを開いているときに、コンフィグレーションデータとランタイムデータが自動的に移行されます。画像やライブラリは、プロジェクトマイグレータを使用し変換するか、グラフィックデザイナーを使用して手動で変換します。

移行の詳細情報については、WinCC 情報システムの[はじめに] > [移行]を参照してください。

### 3.6 WinCC のインストール

#### 必要条件

- WinCC のインストールにはローカル管理者権限が必要です。  
WinCC の操作に必要なユーザー権限の情報は、「データとシステムのセキュリティに関する指示」のセクションを参照してください。
- Windows コンポーネント"MS メッセージキュー"サービスがインストールされている必要があります。
- Windows セキュリティポリシーを適用します。
- "WinCC"の名前付きで手動作成された SQL Server エンティティはインストールされない場合があります。
- ライセンス付き記憶媒体は、まだインストールコンピュータに接続されていません。
- WinCC から OPC-XML-DA-Server を使用する場合、OPC-XML-DA-Server のインストール前に Microsoft インターネットインフォメーションサービス(IIS)をインストールします。

WinCC は、以下のオペレーティング言語に対してリリースされています。ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語および多言語オペレーティングシステム。

WinCC は、簡体字中国語(中国)、繁体字中国語(台湾)、日本語、韓国語のオペレーティングシステム用にもリリースされています。

---

#### 注記

管理者権限無しで WinCC セットアップを実行したり、他のセットアップ条件が満たされない場合には、エラーメッセージが出力されます。エラーメッセージに関する詳細な情報は、「WinCC のインストールの必要条件」を参照してください。

---

#### 手順

1. WinCC 製品 DVD を起動します。  
オペレーティングシステムで自動実行が有効化されている場合は、DVD が自動的に起動します。自動実行機能が無効になっている場合は、DVD 上の「Setup.exe」プログラムを起動します。
2. 画面の指示に従います。  
ライセンス契約とオープンソースライセンス契約を読んでください。
3. インストールする言語を選択します。  
後で別の言語をインストールすることもできます。
4. セットアップのモードを選択します。

5. [パッケージのインストール]で、[プログラムパッケージ"WinCC のインストール]を選択します。  
WinCC オプションもインストールする場合、対応するプログラムパッケージを選択します。  
[ユーザー定義インストール]でインストールの範囲を選択します。  
セットアップでインストールするコンポーネントがハイライトされます。  
表示されたシンボルの説明については、ヘルプをクリックします。[Readme]をクリックして、情報システムを開きます。
6. Microsoft SQL Server のライセンス契約を読みます。
7. WinCC に適用されるセキュリティ設定は、インストールの前に[システム設定]ダイアログで表示されます。ファイアウォールは、自動的に構成されます。システム設定への変更を確定します。
8. インストールを開始します。  
表示されているダイアログでインストール状況を追跡できます。現在のコンポーネントのインストールをキャンセルするには、[キャンセル]を選択します。
9. コンポーネントをインストールした後で、製品のライセンスキーを転送できます。転送するには、[ライセンスキーの転送]をクリックします。ライセンスキーが既に転送されている場合やライセンスキーを後でインストールする場合は、[次へ]を選択します。

---

#### 注記

ライセンスキーは、自動的に転送されません。不足しているライセンスキーは、インストール中またはインストール後に、Automation License Manager を使用して転送する必要があります。

---

10. コンピュータを再起動し、インストールを完了します。

### Windows[スタート]メニューの新規エントリ

WinCC セットアップが、"SIMATIC"プログラムグループに新しいフォルダをインストールしました。

オペレーティングシステムの[スタート]メニューに移動し、"SIMATIC"プログラムグループを開きます。

- Windows XP および Windows Server 2003:  
[スタート]>[SIMATIC]
- Windows 7 / Windows Server 2008 :  
[スタート | すべてのプログラム | Siemens Automation | SIMATIC]

このフォルダで、WinCC Explorer を起動して([SIMATIC] > [WinCC] > [WinCC エクスプローラ])、WinCC で使用する各種ツールを開くことができます([SIMATIC] > [WinCC] > [ツール])。

WinCC に関する文書は、WinCC 情報システムにあります。[SIMATIC] > [WinCC] > [WinCC 情報システム]を選択して、WinCC にインストールした言語の WinCC 情報シ

### 3.6 WinCC のインストール

テムを実行します。他の言語で書かれた文書については、"[SIMATIC] > [製品情報]"を参照してください。印刷用マニュアルは PDF ファイル形式で、製品 DVD の"InstData \PrintDocuments"ディレクトリにあります。

ライセンスは、Automation License Manager([プログラム|Siemens Automation|Automation License Manager])を使って管理できます。

セキュリティコントローラを使用して、適応したセキュリティ設定を表示することができます([プログラム]>[Siemens 自動化]>[セキュリティコントローラ])。

インストールされた SIMATIC ソフトウェアとコンポーネントの概要を次から取得できます。

Windows XP/Windows Server 2003 の場合 : [SIMATIC] > [製品情報] > [インストール済みソフトウェア]。

Windows 7/Windows Server 2008 の場合 : [プログラム] > [Siemens Automation] > [インストール済みソフトウェア]。

#### 下記も参照

WinCC のアップグレード (ページ 116)

データとシステムのセキュリティに関する注 (ページ 93)

オペレーティングシステムでアクセス許可を定義 (ページ 95)

Microsoft メッセージキューのインストール方法 (ページ 104)

Windows セキュリティポリシーの適合方法 (ページ 101)

ソフトウェアの実行に関する注意 (ページ 119)

アンインストールの方法 (ページ 114)

追加コンポーネントを後でインストールする方法 (ページ 110)

ライセンスとライセンス供与 (ページ 75)

WinCC インストールの前提条件 (ページ 81)

### 3.6.4 追加コンポーネントを後でインストールする方法

#### はじめに

WinCC のインストールを完了すれば、追加コンポーネントやオプションは後日インストールできます。

## WinCC オプションのインストール

WinCC DVD には以下の WinCC オプションがあります。

- WinCC/接続性パック
- WinCC/DataMonitor
- WinCC/WebNavigator
- WinCC/Information Server

これらのオプションには独自のライセンスが必要です。

後日 WinCC オプションを購入する場合は、必要なライセンスが記述されているライセンスデータキャリアを受け取ります。インストール DVD は供給されません。

インストール用 WinCC DVD を使用します。

## 手順

1. WinCC 製品 DVD を起動します。  
自動実行機能が無効になっている場合は、DVD 上の「Setup.exe」プログラムを起動します。
2. 個別のコンポーネントやオプションをインストールするかどうかを指定します。すでにインストールされているコンポーネントが表示されます。
3. 画面の指示に従います。

## スマートツールのインストールパス

WinCC DVD の以下のパスから、スマートツールのセットアップを実行します：

- "Instdata\Smarttools\Setup\Setup.exe"

## 下記も参照

WinCC インストールの前提条件 (ページ 81)

WinCC のインストール方法 (ページ 106)

アンインストールの方法 (ページ 114)

ライセンスとライセンス供与 (ページ 75)

### 3.6 WinCC のインストール

#### 3.6.5 追加言語をインストールするには

##### はじめに

WinCC をインストールした後で、追加の言語をインストールできます。

##### 手順

1. オペレーティングシステムの[スタート]メニューで以下を選択します。  
[設定] > [コントロールパネル] > [プログラムの追加と削除] (Windows XP / Windows Server 2003)  
[コントロールパネル] > [プログラムと機能] (Windows 7/Windows Server 2008)
2. [SIMATIC WinCC Runtime V7.2]を選択し、[変更]ボタンをクリックします。  
WinCC セットアッププログラムが開きます。
3. 希望する言語を選択します。
4. プロンプトに従って、WinCC 製品 DVD を DVD ドライブに挿入します。  
自動実行機能により DVD の開始ページが開くので、[終了]をクリックしてウィンドウを閉じます。
5. 画面に表示される指示に従ってください。
6. WinCC CS をインストールしたら、[SIMATIC WinCC Configuration V7.2]を選択し、[変更]ボタンをクリックします。  
WinCC CS について手順 3 ~ 5 を繰り返します。  
この手順を、追加してインストールされるあらゆるコンポーネントおよびオプションに対して繰り返します。

#### 3.6.6 標準クライアントのアップグレード方法

##### はじめに

WinCC 標準クライアントには、独自のプロジェクトが無いクライアントに必要な WinCC コンポーネントだけが含まれています。この理由から、WinCC 標準クライアントを、WinCC シングルユーザーシステムまたは WinCC クライアントには直接アップグレードできません。

アップグレードするためには、まず WinCC 標準クライアントを削除し、WinCC を再度インストールする必要があります。



## 手順

1. WinCC の削除:  
オペレーティングシステムの[スタート]メニューで以下を選択します。  
[設定] > [コントロールパネル] > [プログラムの追加と削除] (Windows XP/Windows Server 2003)  
[コントロールパネル] > [プログラムと機能] (Windows 7/Windows Server 2008)  
"SIMATIC WinCC"で始まるエントリを選択し、それぞれに対して[削除]ボタンをクリックします。  
画面の指示に従います。
2. WinCC 製品 DVD を開始します。
3. 必要なプログラムパッケージおよびコンポーネントを選択します。  
画面の指示に従います。詳細情報は、「WinCC のインストール方法」を参照してください。

## 3.7 アンインストールの方法

### はじめに

コンピュータ上で、WinCC を完全に削除することも、言語やコンポーネントなどの個々のコンポーネントだけを削除することもできます。

### 手順

1. オペレーティングシステムの[スタート]メニューで以下を選択します。  
[設定] > [コントロールパネル] > [プログラムの追加と削除] (Windows XP/Windows Server 2003)  
[コントロールパネル] > [プログラムと機能] (Windows 7/Windows Server 2008)  
インストールされているすべての WinCC コンポーネントのエントリには、接頭辞"SIMATIC WinCC"が先頭に付いています。
2. 必要なエントリを選択して、[削除]をクリックします。  
これにより WinCC セットアップが開始されます。
3. 削除するコンポーネントまたは言語を選択します。  
WinCC バージョンを削除する前にインストールされた WinCC オプションを削除してください。
4. 画面の指示に従います。

### Microsoft SQL Server 2008

WinCC の削除後、"WinCC" SQL Server エンティティも削除する必要があります。 [コントロールパネル] > [アプリケーションの追加と削除]を選択し、次に[Microsoft SQL Server 2008]を選択して削除します。

Microsoft SQL Server 2008 を使用できるのは、有効なライセンスを所有している場合に限られます。

### Automation License Manager / MS Update

WinCC を削除しても、他の SIMATIC 製品で必要になる可能性のある以下のプログラムはインストールされたままです。

- Automation License Manager
- MS Update V1.0 SP1

WinCC の削除後、WinCC の以前のバージョンをインストールするには、これらのプログラムも削除する必要があります。 [コントロールパネル | プログラムの追加と削除]を開き、削除する項目を選択します。

## WebNavigator クライアントがインストールされている時の削除

WebNavigator クライアントがインストールされているコンピュータから WinCC を削除する場合、削除後に WebNavigator クライアントを再インストールする必要があります。

## Windows イベントビューアの設定の変更

WinCC をインストールすると、WinCC セットアッププログラムにより Windows イベントビューアの設定が変更されます。

- 最大ログサイズ(システムログ/ユーザーログ): 1024 KB  
(デフォルト設定: 512 KB)
- ログの延長(システムログ/ユーザーログ): [イベントを上書きする]  
(デフォルト設定: 7 日より古いイベントを上書きする)

WinCC を削除しても、設定はリセットされません。Windows イベントビューアを使えば、この設定を自分で変更することができます。

## 下記も参照

[アップグレードインストールの実行方法 \(ページ 117\)](#)

[WinCC のインストール方法 \(ページ 106\)](#)

[追加コンポーネントを後でインストールする方法 \(ページ 110\)](#)

[ライセンスとライセンス供与 \(ページ 75\)](#)

## 3.8 WinCC のアップグレード

### 3.8.1 WinCC のアップグレード

#### はじめに

アップグレードインストールを使用して、WinCC V6.2.3 以降から WinCC V7.2 にアップグレードすることができます。

「インストールのアップグレード」のセクションに従って実行します。

---

#### 注記

WinCC V7.2 へのアップグレードインストールを開始する前に、PC を再起動します。

---

#### プロジェクトの移行に関する情報

WinCC V7.2 で以前のバージョンのプロジェクトを開くと、移行するように指示されま  
す。ただし、単一ステップで複数の WinCC プロジェクトを移行するには、WinCC プロ  
ジェクトマイグレータを使用することもできます。

移行後にいくつかのプロジェクト設定を行う必要があります。

プロジェクトの移行に関する詳細については、「移行」のセクションを参照してくださ  
い。

---

#### 注記

WinCC ユーザーは、「SQLServer2005MSSQLUser\$<COMPUTERNAME>\$WINCC」  
ユーザーグループのメンバーである必要がなくなりました

このグループから以前のバージョンで入力した WinCC ユーザーを削除してください。

---

#### ライセンスに関する注記

WinCC V7.2 以前のライセンスを現バージョンにアップグレードします。

ライセンスは、WinCC のインストール中または後でアップグレードできます。詳細につ  
いては、WinCC 情報システムのトピック「ライセンス」を参照してください。

下記も参照

アップグレードインストールの実行方法 (ページ 117)

## 3.8.2 アップグレードインストールの実行方法

はじめに

現在バージョン WinCC V6.2.3 がシステムにインストールされていれば、アップグレードインストールを実行できます。

アップグレードインストールを始める前に、既存プロジェクトの移行を行う必要があります。

---

### 注記

修正済みの標準関数(ANSI-C)を使用している場合は、アップグレードインストールを行う前に、ファンクションのバックアップコピーを作成します。これらのファンクションは、WinCC のインストールの過程で、供給される標準関数によって上書きされます。

WinCC 情報システムの[移行]にある注意事項もよくお読みください。

WinCC をアップグレードする前に、プロジェクトのバックアップコピーを行ってください。

---

必要条件

WinCC V6.2.3 または V7.0 がインストールされているハードウェアコンフィギュレーションは WinCC V7.2 のアップグレードのインストールにおいても十分です。ただし、パフォーマンスに影響が出てしまうため、それほど多くのデータボリュームを増やす必要はありません。データ量が増えることが予想される場合は、適当な時期にハードウェアをアップグレードします。

アップグレードの準備

WinCC のアップグレードインストールを実行する場合には、まずアーカイブ名、アーカイブタグ名、トレンド名、トレンドウィンドウ名、列名およびテーブルウィンドウ名に使用されている特殊文字に関して、既存のプロジェクトを検査します。許可されている特殊文字の表については、「WinCC での作業 | プロジェクトでの作業 | 参照」の章を参照してください。

### 3.8 WinCC のアップグレード

場合によっては、WinCC V6.2.3.または V7.0 では、タグロギングを使用して名前から所定の特殊文字を削除する必要があります。

#### 通知

##### 許可されない特殊文字を使用したアーカイブの転送

アーカイブの転送時、アーカイブに使用不可能な特殊文字が含まれていると、ランタイムアーカイブが失われることがあります。

#### 手順

1. 移行する既存の WinCC プロジェクトを準備します。  
許可されない特殊文字がないかどうか、使用されている名前を確認します。
2. まず、インストールした WinCC オプションを削除します。  
次に、WinCC をアンインストールします。  
WinCC オプションを何もインストールしていなければ、WinCC を手動でアンインストールする必要はありません。アップグレードインストール中に、WinCC は自動的に削除されます。
3. WinCC V7.2 をインストールします。「WinCC のインストール方法」のセクションの説明に従って実行します。  
WinCC V7.2 のライセンスの入っている記憶媒体が必要です。WinCC V6.2.3 または V7.0 のアップグレードされたライセンスは失われます。
4. 既存の WinCC プロジェクトを移行します。  
WinCC 情報システムの対応する[最初の情報] > [移行]の章を参照してください。

#### 下記も参照

ライセンスとライセンス供与 (ページ 75)

WinCC のインストール方法 (ページ 106)

アンインストールの方法 (ページ 114)

## 3.9 ソフトウェアの実行に関する注意

### はじめに

最適なパフォーマンスで問題なく WinCC を操作するには、Windows の操作に関する注意に従ってください。

詳細については、WinCC 情報システムの以下のセクションを参照してください。

- 「リリースノート|操作上の注意点」
- 「WinCC での作業|プロジェクトでの作業|ランタイムの設定|ランタイムでの外部アプリケーションの影響」





# 索引

## @

@の接頭辞付きタグ, 47

## A

ActiveX コントロール, 31

## D

DCF ファイル  
作成, 29

DCOM コンフィグレーション, 15

DHCP サーバー, 19

## I

Internet Explorer, 15, 87  
オンラインヘルプ, 15

Internet Explorer V7.0, 14  
オンラインヘルプ, 14

IP アドレス, 19

ISDN ルーター, 19

## M

Microsoft SQL Server, 19

Microsoft SQL Server 2005, 75

Microsoft SQL Server 2008, 114

Microsoft メッセージキュー, 104  
MSMQ Server, 104

MSMQ Server, 104

MS メッセージキュー, 104

## N

Netware, 16

Novell Netware クライアント, 16

Notebook, 19

Novell Netware クライアント, 16

## O

ODK

データベース, 34

OPC, 36

Web サービス, 37

XML データアクセス, 37

履歴データアクセス, 37

OPC A&E, 37

OPC ソース, 38

OPC A&E サーバー, 37

OPC\_E\_MAXEXCEEDED, 37

## P

PDF ファイル, 72

## R

RAS, 19

## S

S5 PROFIBUS DP, 42

S7 Protocol Suite, 42

AR\_SEND での変更, 42

通信, 42

SIMATIC 505 TCP/IP, 42

SIMATIC HMI, 8, 95, 99, 100

ユーザーグループ, 8, 95

SIMATIC Manager

ユーザー権限, 8, 95

SIMATIC セキュリティコントローラ, 106

SQL マスタデータベース, 19

## T

TCP/IP プロトコル, 19

## U

USV, 19

## V

VBA, 34

## W

WinCC, 19, 26

Notebook, 19  
 WinCC DVD, 72  
   アクセスの制限, 8, 95  
   アップグレード, 116  
   インストール, 71, 81, 103  
   インストールのアップグレード, 117  
   インストールの実行, 106  
   インストールの準備, 101  
   インストールの必要条件, 83, 87  
   ドメイン内で使用, 19  
   一般情報, 26  
   削除, 114  
   追加のインストールの実行, 110, 112  
   複数のドメインで使用, 19  
 WinCC DVD, 72  
 WinCC ServiceMode, 48  
 WinCC V6.x, 116  
 WinCC コンフィグレーションツール, 39  
   開く, 39  
   限界値モニタ, 39  
 WinCC プロジェクト  
   ユーザーグループに追加, 100  
 Windows, 8, 87, 95  
   Microsoft メッセージキュー, 104  
   WinCC のインストールの準備, 101  
   Windows での操作, 119  
   アクセス権, 8, 95  
   セキュリティポリシー, 101  
   ツールバー, 93  
   ユーザー権限, 8, 95  
 Windows 7, 16, 87  
 Windows Server 2003, 17, 87  
   S7-DOS のインストール, 17  
   管理コンソール, 17  
 Windows Server 2003 R2, 87  
 Windows Server 2008, 16, 87  
 Windows XP, 87  
 Windows[スタート]メニュー, 106  
 Windows イベント表示, 114  
 Windows タスクバー, 13  
   表示を禁止, 13

## ア

アーカイブコンフィグレーション, 35  
 アーカイブシステム, 28  
   パフォーマンスデータ, 30  
 アーカイブタグ, 35  
 アクセス権, 8, 95, 99, 100  
 アップグレードインストール, 75, 78, 117  
   実行, 117  
 アラームロギング, 47

ループインアラーム, 32

## イ

イベント表示, 114  
 インストール, 12, 103, 106  
   PDF ファイル, 72  
   インストールされているソフトウェアに関する注  
   意点, 106  
   インストールのアップグレード, 117  
   インストールの準備, 101  
   コンポーネント, 106, 110  
   セキュリティポリシーを適合する, 101  
   ドメイン, 87  
   言語の追加インストール, 112  
   削除, 114  
   実行, 106, 117  
   多言語, 16  
   追加のインストールの実行, 110, 112  
   必要条件, 81, 83, 87  
 インストール;インストール, 71  
 インストールガイド, 71  
 インストールされているソフトウェア, 106  
 インストールに関する注意点, 71

## ウ

ウィルススキャナ, 6

## オ

オペレーティングシステム, 12, 87  
   アクセスを禁止する, 93  
   アクセス権, 8, 95  
 オンラインヘルプ, 13  
   Internet Explorer, 15  
   Internet Explorer V7.0, 14  
   ランタイム, 13

## ク

クライアント  
   オペレーティングシステム, 87  
   リモートアクセス, 29  
 クライアントが独自のプロジェクトを持たない、  
 Windows XP 上のサーバープロジェクト, 48  
 クラスタ, 19

## グ

グローバルスクリプト  
ダイナミック言語設定, 32

## コ

コンフィグレーションツール, 39  
コンポーネント, 72, 106, 110  
通信ドライバ, 72  
提供されるコンポーネント, 72

## サ

サーバー  
オペレーティングシステム, 87  
サーバー接続辞, 19

## シ

システム安定性, 26  
ショートカットキーの無効化, 13  
シングルユーザー プロジェクト  
OPC, 35

## ス

スクリーンセーバー, 6  
スタートメニュー, 106  
スマートツール, 39  
WinCC コンフィグレーションツール, 39  
ダイナミックウィザードエディタ, 39  
タグシミュレータ, 39  
タグのエクスポート/インポート, 39

## セ

セキュリティコントローラ, 106  
セキュリティポリシー, 101

## ソ

ソフトウェア, 87  
必要条件, 87

## タ

ターミナルバス  
大容量データ, 35  
タグシミュレータ, 39  
情報, 39  
タグのエクスポート/インポート, 39  
起動; キドウ, 39

## ダ

ダイナミックウィザードエディタ, 39  
開く, 39

## ツ

ツールバー, 93

## デ

デモモード, 75, 78

## ド

ドメイン, 87  
ドメイングローバルユーザーグループ, 100  
ドライバ  
署名のない, 101  
ドングル, 78

## ネ

ネットワークアダプタ, 19  
省電力モード, 19  
ネットワークエンジニアリング, 19  
DHCP サーバー, 19  
IP アドレス, 19  
ISDN ルーター, 19  
Notebook, 19  
Novell クライアントソフトウェア, 16  
RAS 経由アクセス, 19  
TCP/IP プロトコル, 19  
サポートされているネットワークプロトコル, 19  
ドメイン内の WinCC, 19  
ネットワークアダプタ, 19  
ネットワーククライアント, 16  
ネットワークサーバー, 19  
複数のドメインの WinCC, 19

ネットワーククライアント, 16  
ネットワークサーバー, 19  
ネットワークドライブ, 19  
ネットワークプロトコル, 19  
    TCP/IP, 19  
    サポートされているネットワークプロトコル, 19  
ネットワーク接続, 19  
    速度, 19

## ハ

ハードウェア必要条件, 83

## フ

ファイアウォール, 19  
ファイル  
    署名のない, 101  
ファイルの共有, 8, 95  
フォルダ, 8, 95  
    リリースされたフォルダ, 8, 95

## プ

プロキシ, 19  
プロジェクト  
    ユーザーグループに追加, 100

## メ

メッセージフィルタ, 46

## ユ

ユーザーオーソリゼーション, 48  
ユーザーグループ, 8, 95  
    SIMATIC HMI, 8, 95, 99, 100  
    ドメイングローバルユーザーグループ, 100  
    プロジェクトを追加, 100  
ユーザーグループ  
    SIMATIC HMI, 100

## ラ

ライセンス, 75, 78  
    インストール, 75, 78  
    テスト, 78  
ライセンスタイプ, 75  
ライセンスチェック, 78

ライセンスデータキャリア, 78  
ライセンス契約, 75  
ランタイム, 19  
    オンラインヘルプの表示, 13  
    サーバー障害, 19

## 安

安全性, 8, 93, 95

## 移

移行, 46

## 一

一般情報, 6

## 仮

仮想化, 86

## 画

画像描画時間, 48  
画面, 15  
    解像度の変更, 15  
    設定の変更, 15  
画面ツリーマネージャ, 47

## 外

外部アプリケーション, 6, 119

## 記

記憶デバイス, 78

## 共

共有, 8, 95

## 言

言語  
    追加のインストールの実行, 112

**互**

互換性, 6

**削**

削除, 114  
実行, 114

**時**

時間同期化, 27

**手**

手動での切り離し, 19

**署**

署名のないドライバ, 101  
署名のないファイル, 101

**省**

省電力モード, 19  
ネットワークアダプタ, 19

**冗**

冗長性, 19  
冗長サーバー, 19  
標準ゲートウェイのコンフィグレーション, 44

**色**

色パレット, 15  
変更, 15

**接**

接続の中断, 19

**操**

操作, 119  
ドメイン, 87

**多**

多言語, 16  
インストール, 16  
多言語使用, 46

**注**

注記, 6  
操作について, 6

**追**

追加のインストール, 110, 112  
言語, 112  
実行, 110, 112  
標準クライアント, 112

**通**

通信ドライバ, 72, 87  
通信プロセス, 42  
診断データ, 42

**独**

独自のプロジェクトを持たないクライアント, 48  
複数 Windows ユーザーによる操作, 28

**納**

納品範囲, 72

**必**

必要条件, 81  
オペレーティングシステム, 87  
ソフトウェア, 87  
ハードウェア, 83

**標**

標準クライアント, 112  
追加のインストール, 112

## 分

分散システムのエリア名, 48

## 無

無停電電源装置, 19

## 優

優先サーバー, 19

接続の中断, 19